

射水市内遺跡発掘調査報告 16

— 令和4年度射水市内遺跡発掘調査 —

2024年

富山県射水市教育委員会

例言

- 1 本書は、令和4年度に富山県射水市内において射水市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の調査報告書である。
- 2 発掘調査・出土品整理・報告書刊行は、国庫補助金・県費補助金の交付を受けて実施した。
- 3 調査対象とした埋蔵文化財包蔵地名及び調査位置・原因・面積・期間等は第2章に記した。
- 4 本書の執筆・編集は、射水市教育委員会 生涯学習・スポーツ課 課長補佐 田中 明・主査 原田義範が担当した。
- 5 遺物整理の従事者は、高瀬直子・吉澤泰子である。
- 6 出土遺物等への遺跡名の注記には以下の略号を記した。
中山北B (NYKB)、大白北遺跡 (DW)、朴木C遺跡 (SH-C)、加茂社遺跡 (KMS)、高島A遺跡 (ST-A)
八塚A遺跡(OYD-A)、高木・荒畑遺跡(TK・AH)、鏡宮遺跡(KKM)、作道遺跡(STM)、若葉町遺跡(WKB)、二口西遺跡(FKW)
- 7 発掘調査に係る出土遺物・図面・写真等の資料は、すべて射水市教育委員会で一括保管している。

凡例

- 1 本書で用いた座標は、世界測地系第Ⅶ系に準拠した。方位は真北、水平基準は海拔高である。
- 2 遺構実測図の縮尺は、各々のスケールとともにその縮尺を表記した。遺物実測図の縮尺は土器の1/4を基本とし、スケールとともにその縮尺を表記した。
- 3 出土遺物の番号は、遺物実測図・遺物観察表・写真図版の遺物番号にそれぞれ対応している。
- 4 本書で用いた土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』に準拠している。
- 5 第2章の調査地区図版内にある試掘トレンチ脇の記号は、遺物の出土位置を示し、種類は次のとおり表示した。
●：縄文土器 ○：弥生土器 ▽：古墳土師器 ◇：古代土師器 ▲：須恵器
◆：珠洲 □：中世土師器 ■：中世陶磁器 ⊗：近世陶磁器 ⊠：近代以降の遺物
☆：石製品 ★：金属製品 ◎：木製品 ◇：その他の遺物
T：トレンチ（試掘坑）
- 6 遺物実測図中の土器断面の表現は次のとおりとした。
■：須恵器・珠洲 ■：赤彩処理

目次

第1章	射水市の位置と歴史的環境	1
第1節	射水市の位置と歴史的環境	1
第2節	令和4年度実施の埋蔵文化財調査	1
第2章	令和4年度実施の発掘調査	3
第1節	各種開発に伴う試掘調査	3
中山北B遺跡 (No1・19)		5
戸破神田遺跡 (No2)	若葉町遺跡 (No18)	6
禅興寺・長徳寺廃寺跡 (No3・4)		7
大白北遺跡 (No5)	今井二島遺跡 (No21)	8
朴木C遺跡 (No6・8)		9
加茂社遺跡 (No7・11・14)		10
小島遺跡 (No9)	八塚A遺跡 (No13)	11
高島A遺跡 (No10)	中曾根西遺跡 (No12)	12
二口西遺跡 (No20)		13
第2節	作道地区県営ほ場整備事業に伴う試掘調査 (No15・16・17)	16
1. 調査に至る経緯と経過		16

2. 調査の方法	17
3. 調査の結果	17
第3節 各種開発に伴う工事立会調査	23
第4節 荒町・宮新田地区県営ほ場整備事業に伴う分布調査 (No1・2)	24
1. 調査対象地の現況	24
2. 調査の方法	25
3. 調査の結果	25

挿図目次

第1図 射水市の位置	1
第2図 射水市内の主要遺跡	2
第3図 令和4年度埋蔵文化財調査実施箇所位置図	4
第4図 遺物実測図 [八塚A遺跡、加茂社遺跡、中山北B遺跡、大白北遺跡、若葉町遺跡、高島A遺跡、二口西遺跡]	14
第5図 作道地区試掘調査対象地及び周辺の遺跡	16
第6図 作道地区試掘調査トレンチ・検出遺構図 [1]	19
第7図 作道地区試掘調査トレンチ・検出遺構図 [2]	20
第8図 遺物実測図 [高木・荒畑遺跡、作道遺跡]	22
第9図 荒町・宮新田地区分布調査対象地及び周辺の遺跡	24
第10図 荒町・宮新田地区分布調査平面図 [トレンチ及び採取箇所]	26

表目次

第1表 令和4年度埋蔵文化財試掘調査一覧	3
第2表 出土遺物観察表 [八塚A遺跡、加茂社遺跡、中山北B遺跡、大白北遺跡、若葉町遺跡、高島A遺跡、二口西遺跡]	15
第3表 作道地区試掘調査トレンチ一覧	21
第4表 出土遺物観察表 [高木・荒畑遺跡、作道遺跡]	22
第5表 令和4年度埋蔵文化財工事立会調査・分布調査一覧	23

図版目次

図版1 中山北B遺跡 (No1) 試掘調査	調査対象地全景、1 T土層断面、出土遺物
図版2 中山北B遺跡 (No19) 試掘調査	1 T土層断面、1 T遺構検出、出土遺物
図版3 若葉町遺跡 (No18) 試掘調査	2 T全景、2 T土層断面、出土遺物
図版4 大白北遺跡 (No5) 試掘調査	10T全景、10T遺構検出、出土遺物
図版5 朴木C遺跡 (No8) 試掘調査	2 T調査状況、1 T土層断面、表採遺物
図版6 加茂社遺跡 (No7) 試掘調査	調査対象地全景、1 T遺構検出、出土遺物
図版7 八塚A遺跡 (No13) 試掘調査	1 T全景、1 T遺構検出、出土遺物
図版8 高島A遺跡 (No10) 試掘調査	3 T全景、3 T遺構検出、出土遺物
図版9 二口西遺跡 (No20) 試掘調査	調査対象地全景、1 T遺構検出、出土遺物
図版10 高木・荒畑遺跡 (No15) 試掘調査	4 T調査状況、4 T土層断面、出土遺物
図版11 鏡宮遺跡 (No16) 試掘調査	12T調査状況、12T土層断面、出土遺物
図版12 作道遺跡 (No17) 試掘調査	27T全景、27T土層断面、27T遺構検出
図版13 作道遺跡 (No17) 試掘調査	31T全景、31T遺構検出、出土遺物
図版14 荒町・宮新田地区分布調査	17T土層断面、30T遺構検出、表採遺物
図版15 荒町・宮新田地区分布調査	79T全景、107T全景、107T出土遺物

第1章 射水市の位置と歴史的環境

第1節 射水市の位置と歴史的環境

射水市は富山県のほぼ中央に位置し、市域は東西約11km、南北約15kmで面積109.44km²である。北に富山湾、中央に射水平野、南部に射水丘陵を配し、標高0～140mを測る。

富山市・高岡市と隣接し、交通の便に恵まれていることから、住宅団地造成が頻繁に行われ、ベッドタウン化が進んでいる。現在の人口は約89,800人である。

市域の大部分を占める射水平野は、東の神通川と西の庄川に挟まれた東西約11km、南北約7kmの沖積平野であり、およそ1万～8千年前に河川によって運ばれた土砂・粘土・礫などの堆積からなる。この沖積層が堆積した時代は海岸線が沖へ後退し、平野部は現在より広がったとみられるが、その後、いわゆる縄文海進期における海面の上昇によって、海岸線の内陸への進出とともに平野部が狭まり、現在の標高約5m以下は海面下に没したと考えられている。

やがて、気候の寒冷化による海岸線の後退と丘陵部からの土砂の堆積が進むと、かつての海は縮小して放生津潟（現：富山新港）としてのみ形を残し、周辺に低湿な射水平野が開けていった。

市域の南部に広がる射水丘陵は、新生代第三紀の青井谷泥岩層を基盤とし、上層に礫と砂泥からなる日ノ宮互層と太閤山火砕岩層の堆積から成る。丘陵部には、鍛冶川・下条川・和田川やその支流によって河岸段丘や樹枝状の谷間が形成されている。

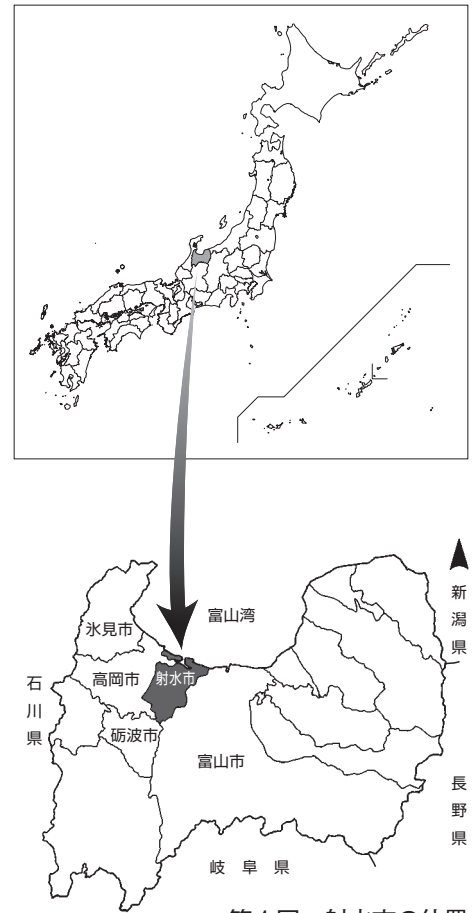
このような自然環境の中で、先人達は集落を形成していったと考えられる。現在、市内には458箇所の遺跡が密集し、平野部では集落遺跡、丘陵部には生産遺跡が多く確認されている。

平野部では、河川に近い地域に高島A遺跡、北高木遺跡、二口油免遺跡、小杉伊勢領遺跡などの集落遺跡が分布し、竪穴建物や掘立柱建物、溝や井戸などが確認されている。生産地である丘陵部と消費地である平野部とを河川が結んで、交通路として機能していたために集落が営まれてきたと考えられている。

丘陵部では国指定史跡の小杉丸山遺跡、小杉流通業務団地内遺跡、上野南遺跡、赤坂A～D遺跡など生産遺跡が集中している。これらの遺跡は、須恵器窯跡約40遺跡、製鉄遺跡約150遺跡を数え、県内最大規模を有する。須恵器生産窯跡や鉄生産製鉄炉と炭焼窯、工人の住居や作業場が見つかり、窯や炉を築くのに適した地形、粘土や薪・水の供給源が豊富にあることが好条件であったと考えられている。

第2節 令和4年度実施の埋蔵文化財調査

令和4年度の射水市管内における各種民間開発事業に係る埋蔵文化財包蔵地の照会件数は367件であった。公共事業関連の開発事業に関しては、関係部局と協議し、試掘調査3件、分布調査1件を実施している。文化財保護法第93条の届出件数は50件、同第94条の通知件数は7件であり、うち、発掘調査等による対応件数は、試掘調査が21件、工事立会調査が15件、分布調査1件となっている。



第1図 射水市の位置



第2図 射水市内の主要遺跡

第2章 令和4年度実施の発掘調査

第1節 各種開発に伴う試掘調査

令和4年度に射水市教育委員会が実施した埋蔵文化財の試掘調査件数は21件であった。調査の原因は宅地造成（4件）、個人専用住宅建築（4件）、集合住宅建設（4件）といった住宅関連と事務所建設（1件）、資材置場及び駐車場造成（4件）の民間開発が81%、公共事業では県営ほ場整備事業（3件）と公有地の地下埋設物調査事業（1件）の19%であった。

試掘調査によって保護措置が必要となる埋蔵文化財が確認された際には、原因者に対して盛土保存や計画変更等による埋蔵文化財の現状保存を第一とし、現状保存が不可能となる場合は本発掘調査による記録保存対応での協議を求めている。

No	遺跡名	所在地	種別	調査原因	調査期間	調査日数 (延べ日)	対象面積	発掘面積	検出遺構	出土遺物	調査後の措置
1	中山北B (211094)	戸破字加茂1607番1	散布地	集合住宅 建設	R4.4.15	1	677.00	57.30	なし	弥生土器	工事実施 (支障なし)
2	戸破神田 (211082)	戸破字神田 4069番2外2筆	散布地	事務所建設	R4.5.16	1	304.00	8.64	なし	なし	工事実施 (支障なし)
3	禪興寺・長徳 寺廃寺跡 (211011)	本町1丁目472番1 外5筆	社寺	宅地造成	R4.5.19	1	1,308.70	32.16	なし	なし	工事実施 (支障なし)
4		本町1丁目445番8	社寺	個人専用 住宅建築	R4.5.20	1	331.21	15.44	なし	なし	工事実施 (支障なし)
5	大白北 (211356)	橋下条1893番1外6筆	散布地	駐車場造成	R4.5.24・25	2	6,160.00	547.80	不明溝 不明土坑	古代須恵器 近世陶磁器	工事実施 (支障なし)
6	朴木C (211044)	朴木265番4	散布地	個人専用 住宅建築	R4.6.6	1	323.02	15.20	なし	なし	工事実施 (支障なし)
7	加茂社 (211088)	三ヶ2687番1	集落 散布地	集合住宅 建設	R4.6.14	1	959.26	59.78	弥生溝 不明溝 不明土坑	弥生土器 石器	工事実施 (工事立会実施)
8	朴木C (211044)	朴木275番1外5筆	散布地	宅地造成	R4.7.4	1	314.73	18.27	なし	なし	工事実施 (支障なし)
9	小島 (211454)	小島431番3	散布地	資材置場 駐車場造成	R4.7.8	1	447.00	25.48	不明溝	なし	工事実施 (支障なし)
10	高島A (211027)	鏡宮224番地外14筆	集落 散布地	市有地 埋設物調査	R4.7.20・21	2	10,910.00	281.58	不明溝 不明土坑	弥生土器 中世珠洲	事業実施 (支障なし)
11	加茂社 (211088)	三ヶ2678番1外1筆	集落 散布地	駐車場造成	R4.7.22	1	432.06	6.72	なし	なし	工事実施 (支障なし)
12	中曾根西 (211016)	松木849番2	散布地	個人専用 住宅建築	R4.8.26	1	237.54	19.40	なし	なし	工事実施 (支障なし)
13	八塚A (211447)	八塚字川田265番 1外1筆	集落 散布地	個人専用 住宅建築	R4.9.13	1	490.00	20.93	弥生溝 古代溝 不明土坑 不明柱穴状土坑	弥生土器 古代須恵器	工事実施 (工事立会実施)
14	加茂社 (211088)	三ヶ2688番1	集落 散布地	集合住宅 建設	R4.9.21	1	933.11	53.92	弥生溝	弥生土器	工事実施 (支障なし)
15	高木・荒畑 (211029)	作道556番外15筆	集落 散布地		R4.10.12~17	4	32,511.00	416.07	弥生溝	弥生土器 近世陶磁器 石製品	工事実施 (支障なし)
16	鏡宮 (211028)	作道555番外9筆	散布地	県営ほ場 整備事業	R4.10.13~17	3	18,879.00	210.35	不明溝	弥生土器	工事実施 (支障なし)
17	作道 (211030)	作道539番外57筆	集落 散布地		R4.10.18~25	6	67,533.00	1,057.77	不明溝	弥生土器 中世珠洲 近世陶磁器	工事実施 (支障なし)
18	若葉町 (211089)	戸破1941番1外3筆	散布地	集合住宅 建設	R4.11.9	1	574.00	22.40	なし	弥生土器	工事実施 (支障なし)
19	中山北B (211094)	戸破字加茂1642番 外3筆	散布地	宅地造成	R4.11.14	1	3,250.00	102.29	不明溝	弥生土器 古代須恵器 近世陶磁器	工事実施 (支障なし)
20	二口西 (211402)	二口字馬渡り893 番外6筆	散布地	宅地造成	R4.11.16	1	2,474.36	37.44	川跡 不明溝	弥生土器 近世陶磁器	工事実施 (支障なし)
21	今井二島 (211043)	今井443番	散布地	資材置場 駐車場造成	R5.3.7	1	1,108.00	94.20	なし	なし	工事実施 (支障なし)
計	16遺跡21件					33	150,156.99	3,103.14			

第1表 令和4年度埋蔵文化財試掘調査一覧

※ 遺跡名下の()内の数字は射水市遺跡番号を示す。



※地図中の●は試掘調査、□は工事立会、△は分布調査箇所を示し、番号は第1・5表及び本文中のNo.に対応

第3図 令和4年度埋蔵文化財調査実施箇所位置図

【令和4年度試掘調査概要】

中山北B遺跡 (No.1・19) (第4図、図版1・2)

所在地	射水市戸破字加茂 1607 番 1 (No.1) 射水市戸破字加茂 1642 番外 3 筆 (No.19)
調査原因	集合住宅建設 (No.1)、宅地造成 (No.19)
調査期間	令和4年4月15日 (No.1) 令和4年11月14日 (No.19)
調査面積	対象面積 677.0 m ² 発掘面積 57.3 m ² (No.1) 対象面積 3,250.0 m ² 発掘面積 102.29 m ² (No.19)
調査担当者	原田義範
検出遺構	なし (No.1)、不明溝 1 条 (No.19)
出土遺物	弥生土器 (No.1・19)、古代須恵器 (No.19) 近世陶磁器 (No.19)

調査概要 遺跡は丘陵縁辺部に位置する平坦地で、調査地は、標高約 5.0 m の水田である。

基本層序は、上層から1層が灰(5Y4/1)色粘質の耕作土(15～25cm)、2層が灰オリーブ(5Y5/2)色粘質土(10～45cm)、3層が灰オリーブ(5Y5/1)色粘質土の地山となる。

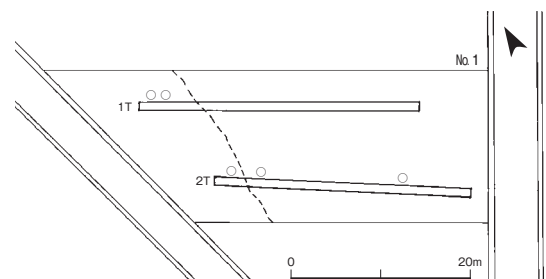
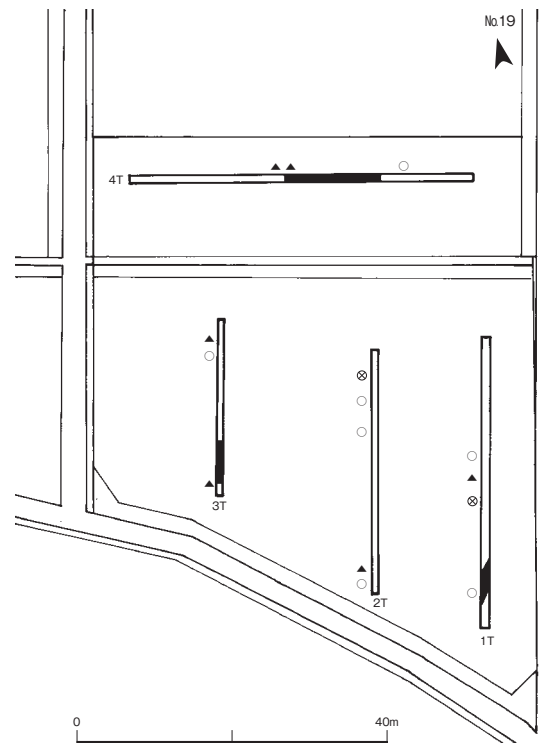
No.1の調査地では2層土の中位に腐植した自然木、下位には腐植した植物遺体の堆積が見られ、沼状の旧地形が想定された。出土した弥生土器は、丘陵直下側の試掘トレンチ西側からまとめて確認した。

周囲の丘陵頂部では弥生時代の集落跡が確認されていることから、遺物が流れ込んだものと考えられる。

No.19の調査地では3T、4Tの窪んだ地形の箇所でも、2層土の中位に腐植した自然木、下位に腐植した植物遺体の堆積が見られた。

遺構は1T南側で、幅約3mの北東方向にのびる時期不明の溝1条を確認している。

主な出土遺物は、弥生時代の壺・甕と古代須恵器の坏・坏蓋・壺・甕が丘陵縁辺部から出土している。



戸破神田遺跡 (No.2)

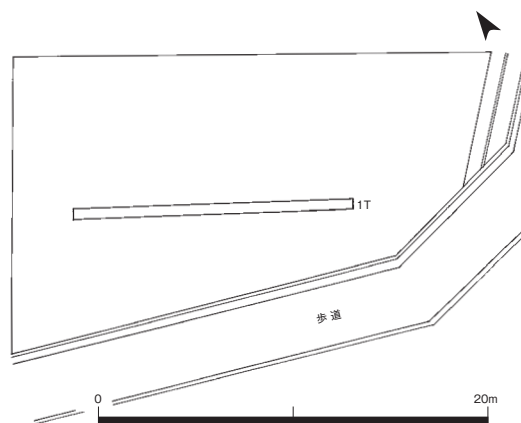
所在地 射水市戸破字神田 4069 番 2 外 2 筆
調査原因 事務所建設
調査期間 令和 4 年 5 月 16 日
調査面積 対象面積 304.0㎡ 発掘面積 8.64㎡
調査担当者 原田義範
検出遺構 なし
出土遺物 なし

調査概要 調査地は遺跡の東端に位置し、標高3.6mの水田及び畑地である。

基本層序は、上層から1層が灰(5Y5/1)色山砂の盛土(20~25cm)、2層が灰(5Y4/1)色砂質土の旧耕作土(20~30cm)、3層が黒(5Y2/1)色粘質土(10cm)、4層が灰オリーブ(5Y6/2)色粘質土の地山となる。

戸破神田遺跡は、平成元年以降周辺の宅地開発に先立ち実施した分布調査で弥生時代~近世まで多岐にわたる遺物が採取されている。

その後、数次の試掘調査を実施したが、その実態は不明なところが多い。



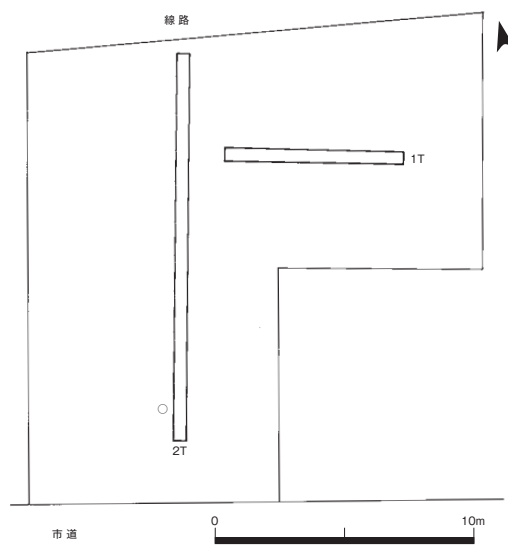
若葉町遺跡 (No.18) (第4図、図版3)

所在地 射水市戸破1941番1外3筆
調査原因 集合住宅建設
調査期間 令和 4 年 11 月 9 日
調査面積 対象面積 574.0㎡ 発掘面積 22.4㎡
調査担当者 原田義範
検出遺構 なし
出土遺物 弥生土器

調査概要 調査地は遺跡の北東端に位置し、標高4.7mの水田である。

基本層序は、上層から1層が黒褐(2.5Y3/1)色土の耕作土(20~30cm)、2層が黒褐(2.5Y3/1)色砂質土の旧耕作土(20~30cm)、3層が黄褐(2.5Y5/3)色シルト質土の地山となる。

2T南端の地山直上付近から1個体の弥生土器片が出土したが、同時代の遺構を含め他の遺構も確認できなかった。



禅興寺・長徳寺廃寺跡 (No.3・4)

所在地 射水市本町1丁目472番1外5筆 (No.3)
射水市本町1丁目445番8 (No.4)

調査原因 宅地造成 (No.3)、個人専用住宅建築 (No.4)

調査期間 令和4年5月19日 (No.3)
令和4年5月20日 (No.4)

調査面積 対象面積1,308.7㎡ 発掘面積32.16㎡ (No.3)
対象面積331.21㎡ 発掘面積15.44㎡ (No.4)

調査担当者 原田義範

検出遺構 なし

出土遺物 なし

調査概要 調査地は遺跡の西側中央部に位置し、標高2.0～2.3mの既存宅地である。

基本層序は、上層から1層がにぶい黄(2.5Y6/3)色の山砂造成盛土(20～50cm)、2層が黒(10YR2/1)色砂質土の旧耕作土(10～30m)、3層が灰(5Y5/1)色砂の地山となる。

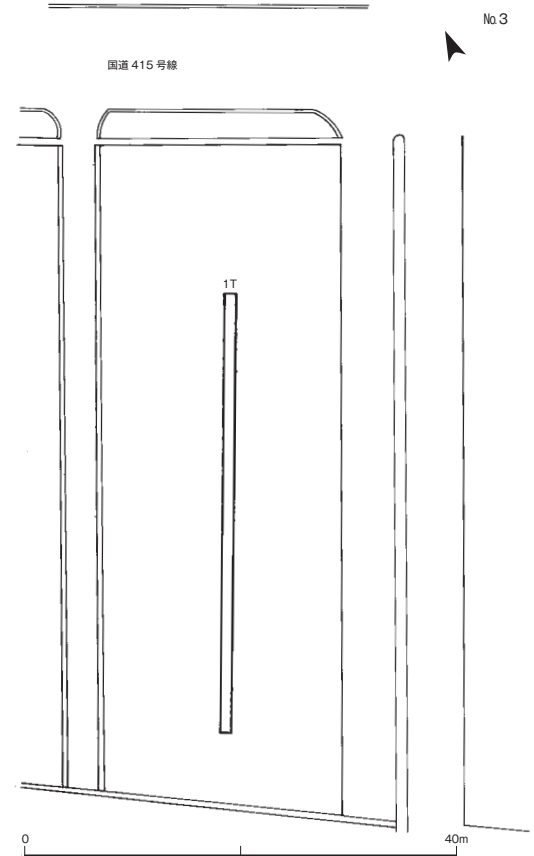
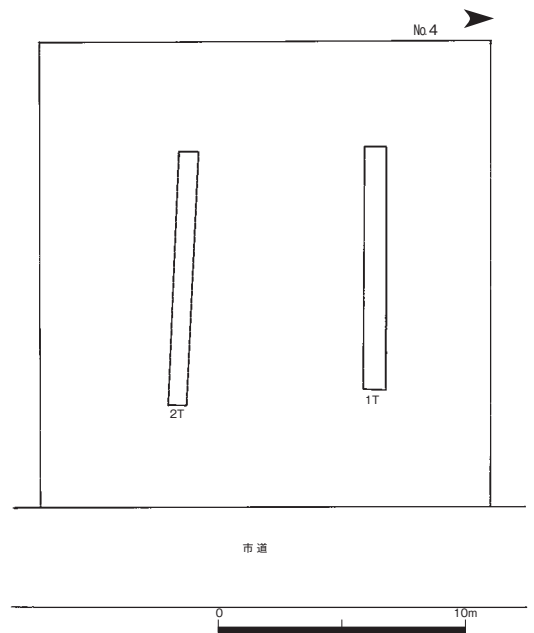
遺構確認は3層上面で行った。

No.3の対象地は既に造成盛土工事がされていたが、試掘確認調査等が未実施だったためトレンチ掘削を行った。

また、No.4の対象地はアスファルト舗装と作業小屋が撤去された更地で、トレンチ一部に旧耕作土等の堆積が見られたが、遺構・遺物の出土がなく、遺跡の遺存状況や広がり確認できなかった。

禅興寺・長徳寺廃寺跡は約400m四方が埋蔵文化財包蔵地となっているが、一帯が市街地で本格的な調査が未実施のため、実態が明らかではない。

鎌倉時代中期頃に隆興した禅興寺は七堂伽藍配置の大寺で、射水市三日曾根の善光寺集落あたりが寺域であったとされる。



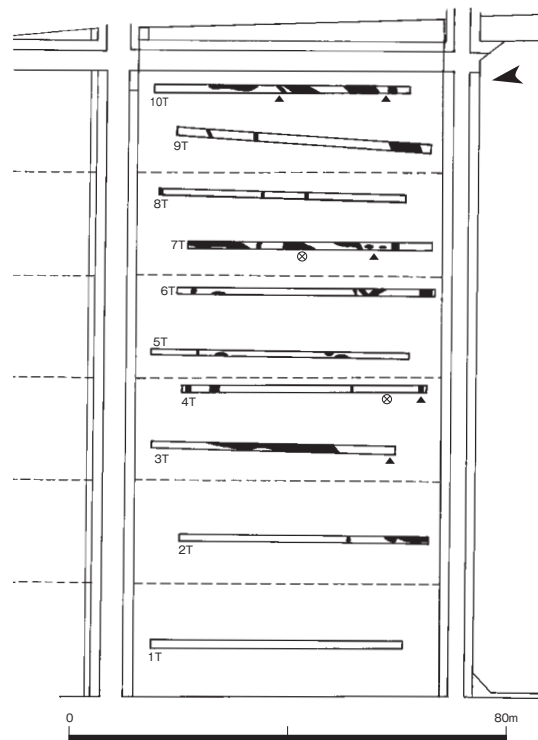
大白北遺跡 (No5) (第4図、図版4)

所在地 射水市橋下条 1893 番 1 外 6 筆
調査原因 駐車場造成
調査期間 令和 4 年 5 月 24 日・25 日
調査面積 対象面積 6,160.0 m² 発掘面積 547.8 m²
調査担当者 原田義範
検出遺構 不明溝、不明土坑
出土遺物 古代須恵器、近世陶磁器

調査概要 調査地は遺跡の東南端に位置し、標高 7.5 m の水田である。

基本層序は、上層から 1 層が黒褐 (2.5Y 3/1) 色砂質の耕作土 (20 ~ 30cm)、2 層が褐灰 (10YR4/1) 色砂質土 (0 ~ 30cm)、3 層が黄灰 (2.5Y6/1) 色シルト質土の地山となる。

4T 以東では昭和 30 年代後半から 40 年代に実施された区画整理事業に伴う削平がみられ、耕作土直下が 3 層の遺構確認面となる箇所が広範囲で確認された。検出遺構からは古代須恵器や近世陶磁器が出土しているが、いずれも区画整理前の用排水路に付随する痕跡と考えられ、近現代遺物も混在して出土した。



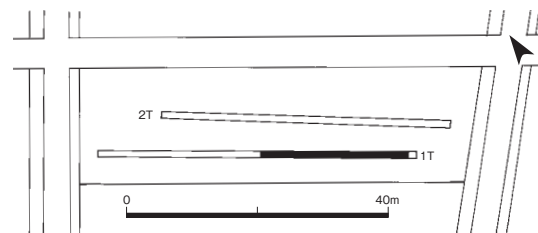
今井二島遺跡 (No21)

所在地 射水市今井 443 番
調査原因 資材置場及び駐車場造成
調査期間 令和 5 年 3 月 7 日
調査面積 対象面積 1,108.0 m² 発掘面積 94.2 m²
調査担当者 原田義範
検出遺構 なし
出土遺物 なし

調査概要 調査地は遺跡の北西に位置し、標高 3.1 m の畑地である。

基本層序は上層から 1 層がにぶい黄橙 (10YR6/4) 色山砂 (盛土) の耕作土 (0 ~ 30cm)、2 層が黄灰 (2.5YR4/1) 色粘質の旧水田耕作土 (15 ~ 40cm)、3 層が黒 (10Y2/1) 色粘質土 (0 ~ 5cm)、4 層が黄灰 (2.5Y4/1) 色砂質土 (0 ~ 30cm)、5 層が灰白 (5Y7/1) 色の地山となる。

遺構確認は 5 層上面で行ったが、遺構・遺物は確認できなかった。



朴木C遺跡 (No.6・8) (図版5)

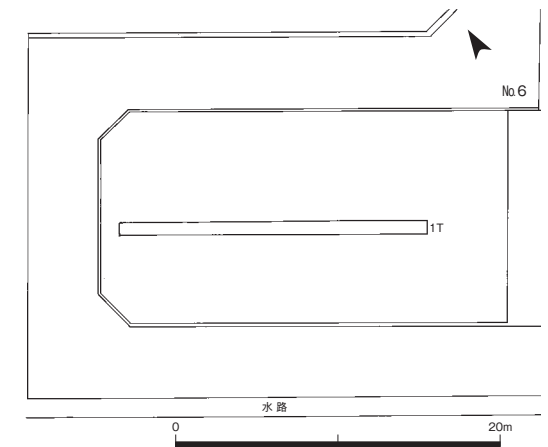
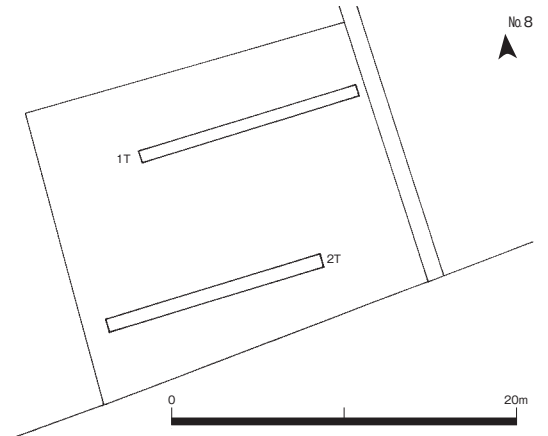
所在地 射水市朴木 265 番 4 (No.6)
射水市朴木 275 番 1 外 5 筆 (No.8)
調査原因 個人専用住宅建築 (No.6)、宅地造成 (No.8)
調査期間 令和4年6月6日 (No.6)
令和4年7月4日 (No.8)
調査面積 対象面積 323.02 m² 発掘面積 15.2 m² (No.6)
対象面積 314.73 m² 発掘面積 18.27 m² (No.8)
調査担当者 原田義範
検出遺構 なし
出土遺物 なし

調査概要 調査地は遺跡の中央部西側に位置し、標高 2.1～2.2 mの宅地 (No.6) 及び畑地 (No.8) である。

基本層序は上層から1層が黄灰 (2.5Y4/1) 色砂質の耕作土 (50cm)、2層が灰 (5Y5/1) 色土 (0～40cm)、3層がにぶい黄 (2.5Y6/3) 色またはオリーブ灰 (2.5GY5/1) 色シルト質土の地山となる。

両調査地は水田であった土地に、No.6は旧耕作土の除去後に山砂造成盛土 (約100cm) がなされ宅地化、No.8は旧耕作土上に他所の耕作土を搬入し盛土 (約40cm) がなされ、畑地として利用されていた。

両調査地とも遺構・遺物は確認できなかったが、No.8では搬入土に混入していた多くの弥生土器・古代須恵器・近世陶器・近世磁器の表採遺物があった。



加茂社遺跡 (No.7・11・14) (第4図、図版6)

所在地 射水市三ヶ 2687 番 1 (No.7)
射水市三ヶ 2678 番 1 外 1 筆 (No.11)
射水市三ヶ 2688 番 1 (No.14)

調査原因 集合住宅建設 (No.7・14)、駐車場造成 (No.11)

調査期間 令和 4 年 6 月 14 日 (No.7)
令和 4 年 7 月 22 日 (No.11)
令和 4 年 9 月 21 日 (No.14)

調査面積 対象面積 959.26 m² 発掘面積 59.78 m² (No.7)
対象面積 432.06 m² 発掘面積 6.72 m² (No.11)
対象面積 933.11 m² 発掘面積 53.92 m² (No.14)

調査担当者 原田義範

検出遺構 弥生溝 1 条 (No.7・14)、不明溝 2 条 (No.7)
不明土坑 1 基 (No.7)

出土遺物 弥生土器 (No.7・14)、石器 (No.7)

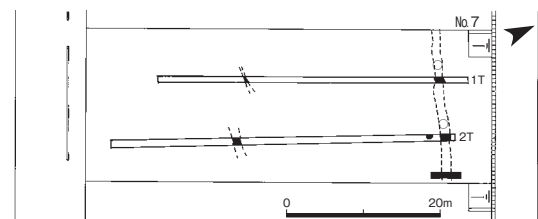
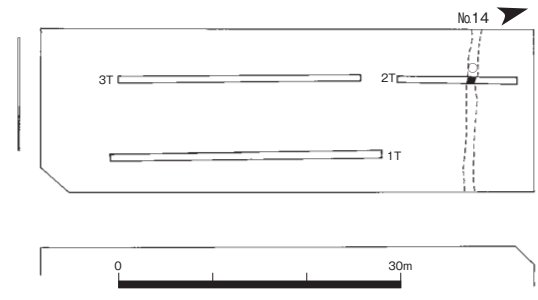
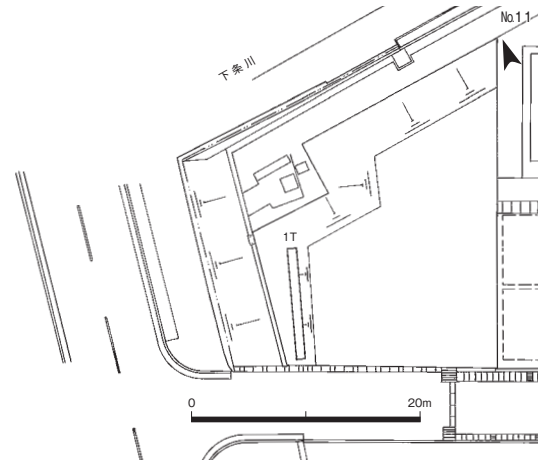
調査概要 調査地は遺跡の西端部に位置した標高 4.7～5.0 m の盛土地及び水田である。

基本層序は、上層から 1 層が灰 (5Y4/1) 色粘質の旧耕作土 (10～20cm)、2 層が灰黄 (10YR5/2) 色粘質土または灰オリーブ (5Y5/2) 色粘質土 (10～40cm)、3 層が灰 (5Y5/1) 色粘質土または灰オリーブ (5Y6/2) 色粘質土の地山である。

調査地が接する No.7・No.14 では北側で東西方向にのびる幅約 0.7 m、深さ 0.4 m の弥生時代の溝 1 条を確認した。この溝は No.7 の西隣接地でも確認されている。いずれも盛土による駐車場用途であったため、本発掘調査には至らない取り扱いとした。擁壁工事にかかる溝については工事立会を行い、遺構を完掘し遺物の取り上げを行った。

No.7 の 1T と 2T と擁壁工事箇所が発掘した弥生時代の溝からは弥生時代後期の壺・甕・高坏・器台・壺蓋が出土した。

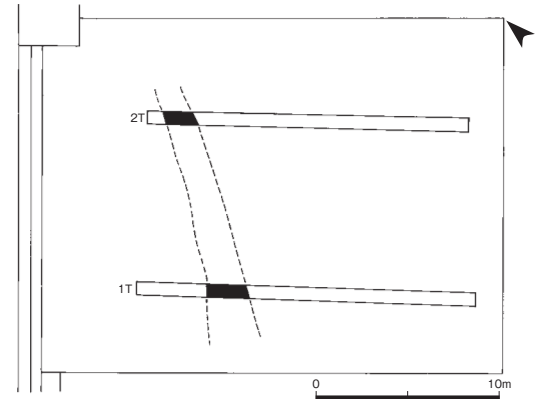
No.11 調査地では既に 2 m 弱の山土砂による盛土がされていたため、敷地境界沿いの旧水田面が露頭する部分にトレンチを設定したが、遺構・遺物は確認できなかった。



小島遺跡 (No.9)

所在地 射水市小島 431 番 3
調査原因 資材置場及び駐車場造成
調査期間 令和 4 年 7 月 8 日
調査面積 対象面積 447.0 m² 発掘面積 25.48 m²
調査担当者 原田義範
検出遺構 不明溝 1 条
出土遺物 なし

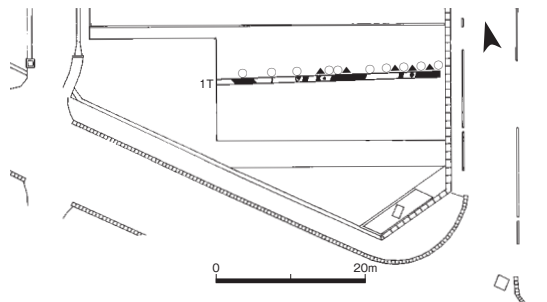
調査概要 調査地は遺跡の南端に位置し、標高 5.1 m の水田である。
基本層序は上層から 1 層が黒褐 (2.5Y4/2) 色粘質土の耕作土 (30 ~ 40cm)、2 層が黄灰 (2.5Y4/1) 色粘質土 (10 ~ 25cm)、3 層がにぶい黄褐 (2.5Y6/3) 色シルト質土の地山となる。
遺構確認は 3 層上面で行った。
調査地西側で南北方向にのびる幅 1.5 ~ 2.2 m の時期不明の溝 1 条を確認した。



八塚A遺跡 (No.13) (第4図、図版7)

所在地 射水市八塚字川田 265 番 1 外 1 筆
調査原因 個人専用住宅建築
調査期間 令和 4 年 9 月 13 日
調査面積 対象面積 490.0 m² 発掘面積 20.93 m²
調査担当者 原田義範
検出遺構 弥生溝 4 条、古代溝 2 条
不明土坑 2 基、不明柱穴状土坑 1 基
出土遺物 弥生土器、古代須恵器

調査概要 調査地は遺跡の南端に位置し、標高 6.5 m の畑地である。
基本層序は上層から 1 層が黒褐 (2.5Y3/1) 色粘質の耕作土 (20 ~ 30cm)、2 層が暗オリーブ褐 (2.5Y3/3) 色粘質土 (15 ~ 30cm)、3 層が黒 (2.5Y2/1) 色砂質土、4 層が灰オリーブ (5Y5/3) 色粘質土または灰 (5Y6/1) 色砂の地山となる。
遺構確認は 4 層上面で行った。耕作土下約 10cm から 4 層の深さまで遺物が包含していた。
遺物は弥生土器・古代須恵器とも出土量が多く、二時期の集落跡等が遺存している可能性が高いと考えられる。



高島A遺跡 (No.10) (第4図、図版8)

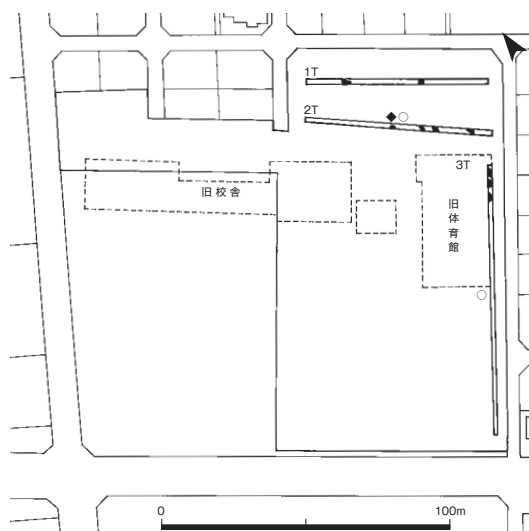
所在地 射水市鏡宮 224 番地外 14 筆
調査原因 市有地埋設物調査
調査期間 令和 4 年 7 月 20 日・21 日
調査面積 対象面積 10,910.0 m² 発掘面積 281.58 m²
調査担当者 原田義範
検出遺構 不明溝 6 条、不明土坑 3 基
出土遺物 弥生土器、中世珠洲

調査概要 調査地は遺跡の中央部西端に位置し、標高 2.0 m の学校グランド跡地である。

基本層序は上層から 1 層がにぶい黄 (2.5Y6/3) 色山砂の造成盛土 (20 ~ 80cm)、2 層が黄灰 (2.5Y4/1) 色砂 (0 ~ 50cm)、3 層が黒褐 (2.5Y5/2) 色粘質の旧耕作土 (20 ~ 40cm)、4 層が灰白 (5Y7/1) 色粘質土の地山となる。

遺構確認は 4 層上面で行った。3T の北半分は旧体育館の基礎解体時の影響で基本層序や遺構確認面に攪乱が見られた。

検出遺構からは遺物が出土していないため時期不明であるが、造成以前の水田用排水路跡や付随施設の痕跡と考えられる。



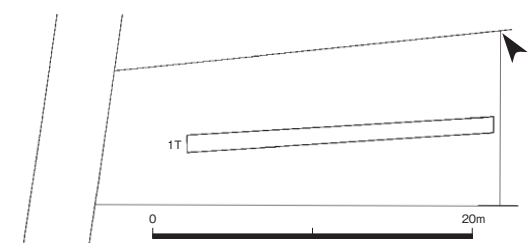
中曽根西遺跡 (No.12)

所在地 射水市松木 849 番 2
調査原因 個人専用住宅建築
調査期間 令和 4 年 8 月 26 日
調査面積 対象面積 237.54 m² 発掘面積 19.4 m²
調査担当者 原田義範
検出遺構 なし
出土遺物 なし

調査概要 調査地は遺跡の南端に位置し、標高 2.5 m の水田である。

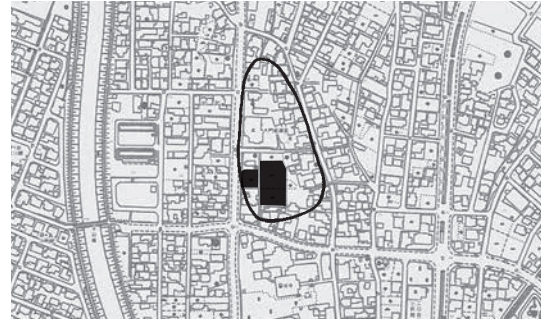
基本層序は上層から 1 層が黒褐 (2.5Y3/1) 色粘質の畑地耕作土 (0 ~ 20cm)、2 層が灰黄 (2.5Y6/2) 色の山土砂盛土 (90 ~ 100cm)、3 層が黒 (2.5Y2/1) 色粘質の旧水田耕作土 (10 ~ 20cm)、4 層が灰 (5Y6/1) 色シルト質土の地山である。

遺構確認は 4 層上面で行ったが、遺跡の広がり確認できなかった。



二口西遺跡 (No20) (第4図、図版9)

所在地 射水市二口字馬渡り 893 番外6 筆
調査原因 宅地造成
調査期間 令和4年11月16日
調査面積 対象面積 2,474.36 m² 発掘面積 37.44 m²
調査担当者 原田義範
検出遺構 川跡1条、不明溝4条
出土遺物 弥生土器、近世陶磁器

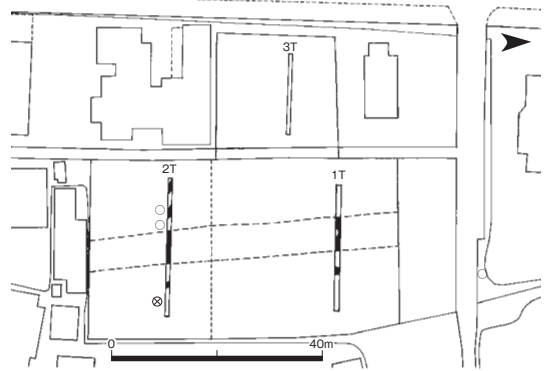


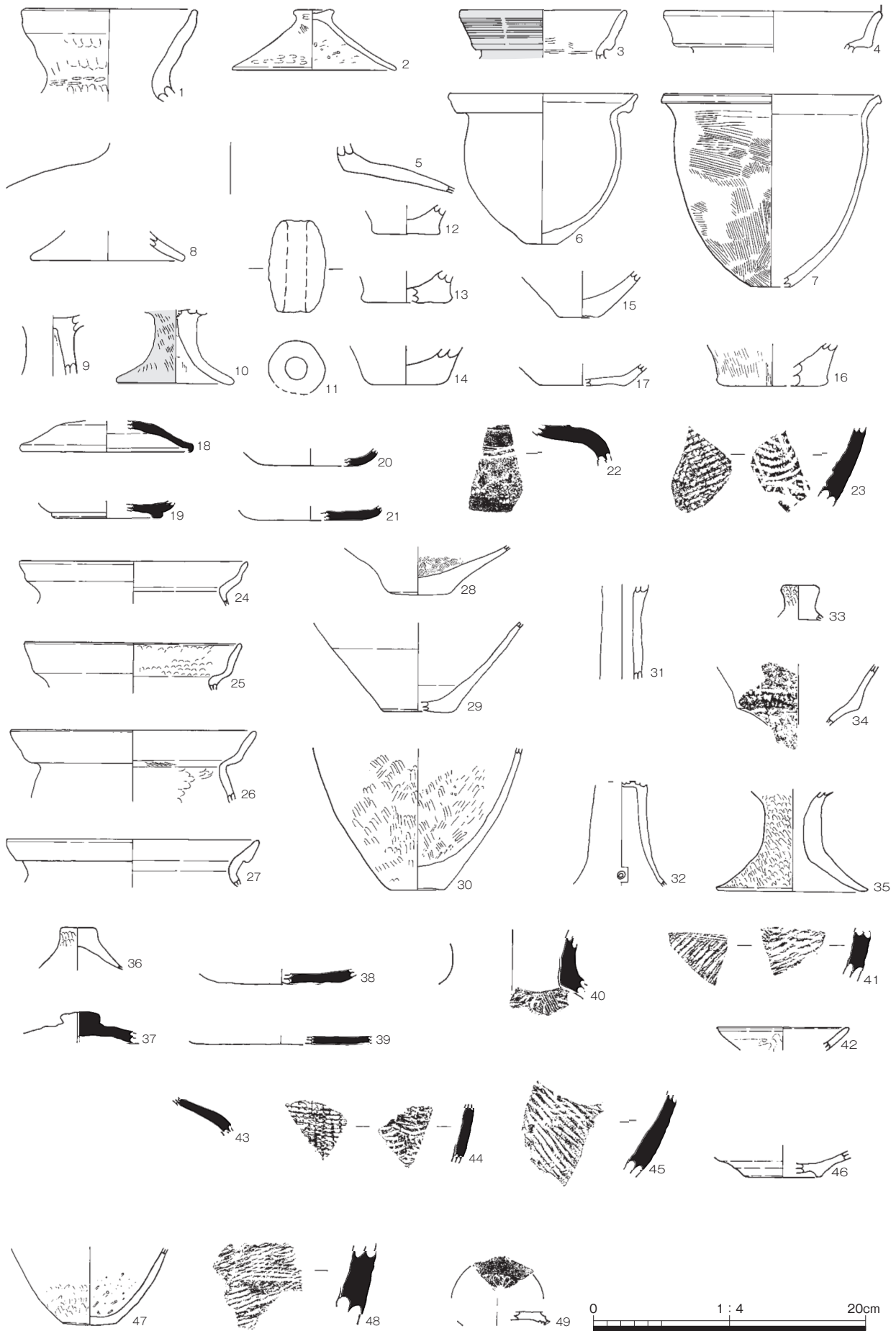
調査概要 調査地は遺跡の南西部に位置し、標高約7.5 mの水田である。

基本層序は上層から1層が黒褐 (2.5Y3/1) 色砂質土の耕作土 (15 ~ 20cm)、2層が黄灰 (2.5Y6/1) シルト質土の地山となる。

遺構確認は2層上面で行った。

検出遺構はいずれも新しく、弥生土器も耕作土中から摩滅した状態で出土しているため、近隣からの流れ込みと考えられる。





第4図 遺物実測図 (1/4) 八塚A遺跡 (1~23) 加茂社遺跡 (24~35) 中山北B遺跡 (36~42) 大白北遺跡 (43~46)
 若葉町遺跡 (47) 高島A遺跡 (48) 二口西遺跡 (49)

図版	No.	出土地区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第4図	1	1 T	弥生土器	壺	12.2			八塚A遺跡 内外面器面荒れ	口1/16
	2	1 T	弥生土器	壺	※3.0	4.4	12.1	八塚A遺跡 ※つまみ径	底1/6
	3	1 T	弥生土器	甕	10.5	12.0		八塚A遺跡 外面赤彩	破片
	4	1 T	弥生土器	壺	15.9			八塚A遺跡	破片
	5	1 T	弥生土器	壺				八塚A遺跡	体1/8
	6	1 T	弥生土器	甕	13.8	11.0	2.2	八塚A遺跡 内外面摩滅	口10/16底完存
	7	1 T	弥生土器	甕	15.8	14.0	3.0	八塚A遺跡 内外面器面荒れ	1/4
	8	1 T	弥生土器	高坏			11.0	八塚A遺跡	脚部1/8
	9	1 T	弥生土器	高坏				八塚A遺跡	柱状部3/4
	10	1 T	弥生土器	高坏	(5.5)	8.7		八塚A遺跡 外面赤彩	脚部1/2
	11	1 T	弥生土器	土錘		(6.8)		八塚A遺跡	ほぼ完存
	12	1 T	弥生土器	壺			4.8	八塚A遺跡	底完存
	13	1 T	弥生土器	壺			6.6	八塚A遺跡	底1/2
	14	1 T	弥生土器	壺			5.4	八塚A遺跡	底完存
	15	1 T	弥生土器	壺			3.3	八塚A遺跡	底完存
	16	1 T	弥生土器	壺			8.0	八塚A遺跡	底1/4
	17	1 T	古代土師器	碗			6.4	八塚A遺跡	底1/6
	18	1 T	古代須恵器	坏蓋	12.3		7.2	八塚A遺跡	口1/8
	19	1 T	古代須恵器	坏			7.6	八塚A遺跡	底1/2
	20	1 T	古代須恵器	坏			10.0	八塚A遺跡	底1/6
	21	1 T	古代須恵器	坏				八塚A遺跡	
	22	1 T	古代須恵器	壺				八塚A遺跡	破片
	23	1 T	古代須恵器	甕				八塚A遺跡	破片
	24	※溝	弥生土器	甕	16.7			加茂社遺跡 ※工事立会	口3/16
	25	2 T	弥生土器	甕	15.8			加茂社遺跡	口1/8
	26	1 T (溝)	弥生土器	甕	17.8			加茂社遺跡	口1/8
	27	1 T (溝)	弥生土器	甕	18.2		4.7	加茂社遺跡	破片
	28	2 T	弥生土器	壺			5.5	加茂社遺跡	口1/8
	29	2 T	弥生土器	壺			4.0	加茂社遺跡	口1/8
	30	1 T (溝)	弥生土器	壺				加茂社遺跡	底ほぼ完存
	31	※溝	弥生土器	器台				加茂社遺跡 ※工事立会	柱状部
	32		弥生土器	高坏				加茂社遺跡	柱状部
	33		弥生土器	壺蓋	※2.4			加茂社遺跡 ※つまみ径	つまみ部完存
	34	1 T	弥生土器	高坏			10.9	加茂社遺跡	
	35	1 T	弥生土器	器台				加茂社遺跡	脚部1/4
	36	1 T	弥生土器	壺蓋	※2.5			中山北B遺跡 ※つまみ径	
	37	3 T	古代須恵器	坏蓋	※2.8		9.0	中山北B遺跡 ※つまみ径	
	38		古代須恵器	坏			10.0	中山北B遺跡	底3/4
	39		古代須恵器	坏				中山北B遺跡	
	40		古代須恵器	壺				中山北B遺跡	頸部1/8
	41		古代須恵器	壺				中山北B遺跡	破片
	42	2 T	近世陶器	小皿	9.6			中山北B遺跡 越中瀬戸	
	43		古代須恵器					大白北遺跡	破片
	44		古代須恵器					大白北遺跡	破片
	45		古代須恵器					大白北遺跡	破片
	46		近世陶器	皿			4.0	大白北遺跡 越中瀬戸	底1/2
	47	2 T	弥生土器	壺				若葉町遺跡	底ほぼ完存
	48		中世珠洲	壺				高島A遺跡	破片
	49	2 T	近世陶器	皿				二口西遺跡 瀬戸(菊花紋)	底3/16

口：口径部 体：体部 底：底部

第2表 出土遺物観察表 [八塚A遺跡、加茂社遺跡、中山北B遺跡、大白北遺跡、若葉町遺跡、高島A遺跡、二口西遺跡]

第2節 作道地区県営ほ場整備事業に伴う試掘調査(No.15・16・17)

1. 調査に至る経緯と経過

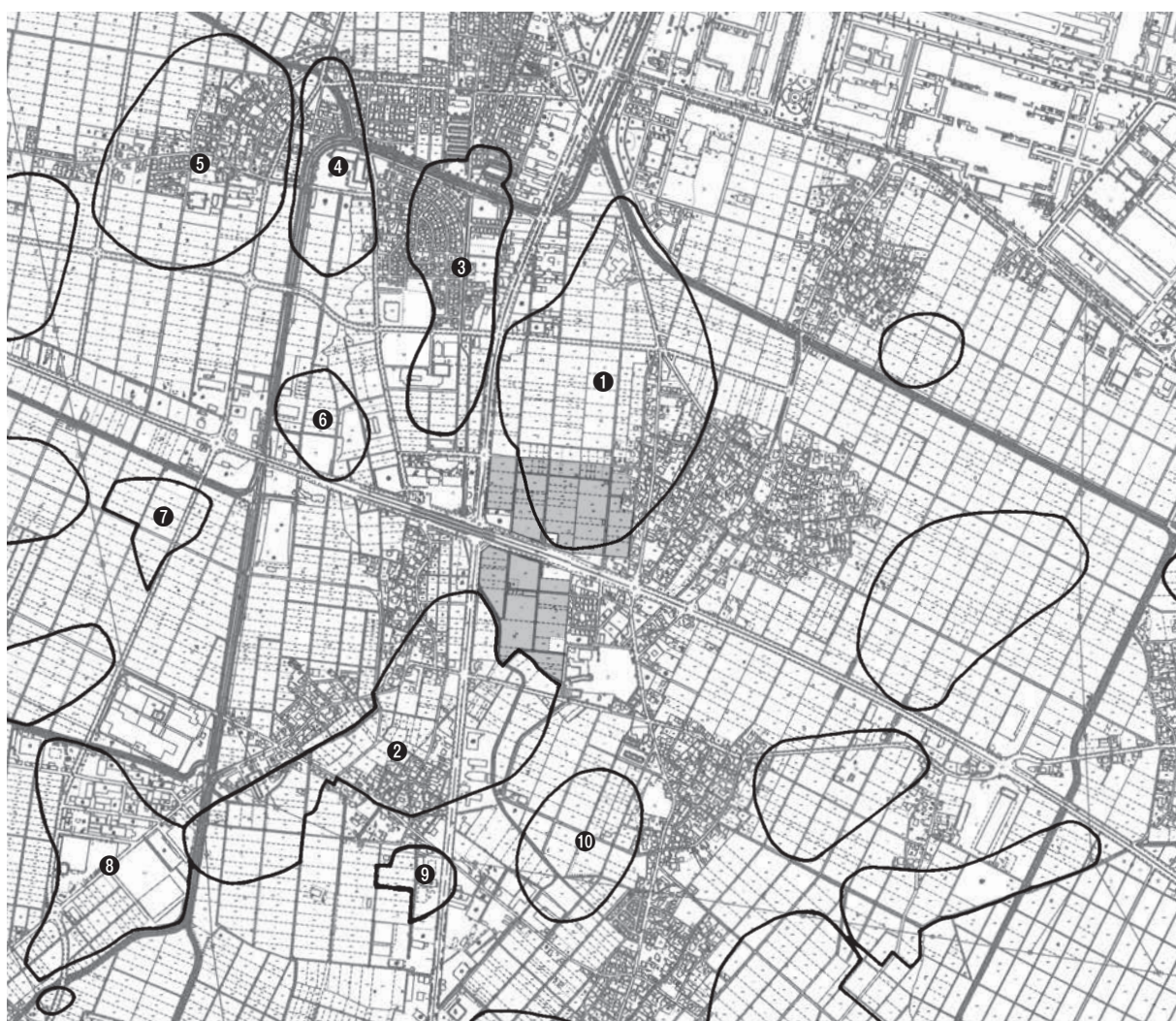
令和2年11月、富山県高岡農林振興センターから、射水市作道地区における県営ほ場整備事業の実施に係る事前協議を受けた。事業は昭和40年代初頭頃までに行われた耕地整理に次ぐもので、令和5年度着工を想定し、内容は区画整理工、用排水路工、農道工、暗渠排水工を実施し、平均1haの大区画ほ場へ再整備するもので、計画面積は約46haである。

計画地内には高木・荒畑遺跡、鏡宮遺跡、作道遺跡が周知の埋蔵文化財包蔵地として所在するが、鏡宮遺跡以外は市道拡幅工事や土地区画整理事業に先立つ発掘調査が実施され、埋蔵文化財の所在が把握されている地域であった。また、前述の耕地整理による客土や切土・盛土等の地形改変も行われていた。

調査対象地の現況は水田及び畑地で、標高0.4m～1.4mである。

令和4年度の試掘調査は、国道8号線以南に所在する高木・荒畑遺跡、鏡宮遺跡と隣接地の51,390㎡と国道8号線以北の作道遺跡南部の67,533㎡を対象として実施した。

試掘調査は遺跡及び隣接地を含む範囲118,923㎡を対象に、令和4年10月12日から10月25日の実働12日間で実施した。



第5図 作道地区試掘調査対象地及び周辺の遺跡(1/20,000)

■ 試掘調査対象範囲

- ①作道遺跡 ②高木・荒畑遺跡 ③高島A遺跡 ④朴木A遺跡 ⑤朴木C遺跡 ⑥鏡宮北遺跡 ⑦沖塚原東B遺跡 ⑧北高木遺跡
⑨南浦遺跡 ⑩今井西遺跡

2. 調査の方法

試掘トレンチ（試掘溝）はバックホウにより幅約 0.9 m、長さ約 16 m～65 m のトレンチ（以下 T と略す）を現在のほ場に合わせて任意に設定し、遺構面と考えられる土層まで掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認するとともに、写真撮影により土層記録を作成した。発掘したトレンチは計 38 本で、総発掘面積は 1,684.19 m² である。

3. 調査の結果

(1) 基本層序

調査対象範囲は、旧神楽川右岸域の沖積地に位置し、北側は放生津潟に面した湿原地帯であった地域である。

この湿原は放生津潟の水面と標高差がほとんどないため、河川の流が澱み沼沢地で形成、湿原の植物が枯れて泥炭が堆積し平野が開けていったと考えられる。

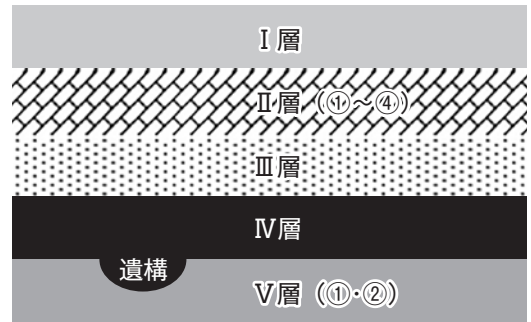
現在の地形は全体的にほとんど起伏の見られない平坦地で、調査地の南端（11 T）と北端（27 T）付近の比高差は約 1 m となる。土壌の堆積状況は前述の平野形成過程があり一定とは言えない状況であった。

基本層序は上層から順に、I 層：褐灰（10YR5/1）色土、II-①層：褐灰（10YR4/1）色粘質土、II-②層：黒褐（2.5YR3/2）色粘質土、II-③層：II-②に植物が混在する、II-④層：オリーブ褐（2.5Y6/4）色砂、III 層：暗赤褐（5YR3/2）色土（腐植土）、IV 層：黒（10YR2/1）色土、V-①層：黄橙（10YR7/8）色または灰白（N-7）粘質土、V-②層：灰黄（2.5Y7/2）色または灰白（N-7）砂の地山となる。

I 層は現在の水田または畑地の耕土である。II 層は水田床土及び造成盛土等の人為的堆積層を一括した。II 層によって田面（I 層：耕土）の水平を調整しているため層上面は概ね水平堆積となっていた。III・IV 層は自然堆積層で、下層に位置する V 層が深く落ち込む場所ではやや厚く堆積し、弥生時代以降の遺物を包含する。また、自然地形の落ち込み部分では植物遺体を含む腐植土層が散見される。

V 層は地山で、場所や地表面からの深さによって色調・性質は若干異なるが、概ね灰黄色か灰白の粘質土または砂である。

V 層上面が弥生時代以降の遺構検出面となるが、耕土直下に V 層が現れる（1～4・12・13 T）場所では、昭和 30 年代の耕地整理によって削平されているため、遺構の遺存状況は良好ではない。



(2) 遺構及び遺物（第 6～8 図、図版 10～13）

高木・荒畑遺跡

高木・荒畑遺跡及びその周辺には 1～6 T、10・11 T、14 T の 9 本のトレンチを設定した。標高 1.12 m～1.48 m で、遺構確認面の標高は 0.36 m～1.21 m である。

4 T 検出の弥生溝及び周囲の地山から弥生土器がまとまって出土した。10 T の地山直上からも弥生土器の出土が見られた。また、1 T から弥生土器が散見されたが、いずれも I 層耕土からの出土であった。

鏡宮遺跡

鏡宮遺跡及びその周辺には 7～9 T、12・13 T の 5 本のトレンチを設定した。標高 0.95 m～1.26 m で、遺構確認面の標高は 0.47 m～1.04 m である。7 T から時期不明の溝 1 条と I 層耕土から摩滅した弥生土器 1 点が出土した。

作道遺跡

作道遺跡及びその周辺には15～38 Tの24本のトレンチを設定した。標高0.40 m～1.09 mで、遺構確認面の標高は0.12 m～0.63 mである。

遺構は時期不明の溝や土坑の他、31・32・35～38 Tでは昭和30年代のほ場整備以降に埋め立てられたと考えられる用排水路の溝と自然地形落込みを確認した。また、25・26 Tでは幅30数mに及ぶ地形の落ち込みが見られた。

遺物は15・17・24・26・33～37 Tを除く、各トレンチで出土が見られる。弥生土器や近世陶磁器も散見されるがI層耕土からの出土が大半であった。

(3) 調査のまとめ

調査対象地内及び近隣には当該の3遺跡のほか高島A遺跡等が所在し、過去の調査では弥生時代から古墳時代の集落跡が発見されていた。このことから、今回の調査地でも同様な集落などの広がりが見込まれていた。

しかし、検出遺構は昭和30年代のほ場整備以降に埋め立てられたと考えられる用排水路跡等が多く見られた。遺物の出土地点にまとまりがなく、大半がI層耕土中から出土している。4 Tの溝から弥生土器のまとまりが見られたが、広範囲の広がりは見られなかった。

参考文献

- 金三津英則 他 2006『高島A遺跡発掘調査報告－鏡宮高島土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査－』富山県射水市教育委員会
金三津英則 他 2007『高島A遺跡発掘調査報告－射水市立新湊南部中学校用地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査－』富山県射水市教育委員会
岡田 一広 他 2022『沖塚原東B遺跡発掘調査報告－沖塚原企業団地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査－』富山県射水市教育委員会



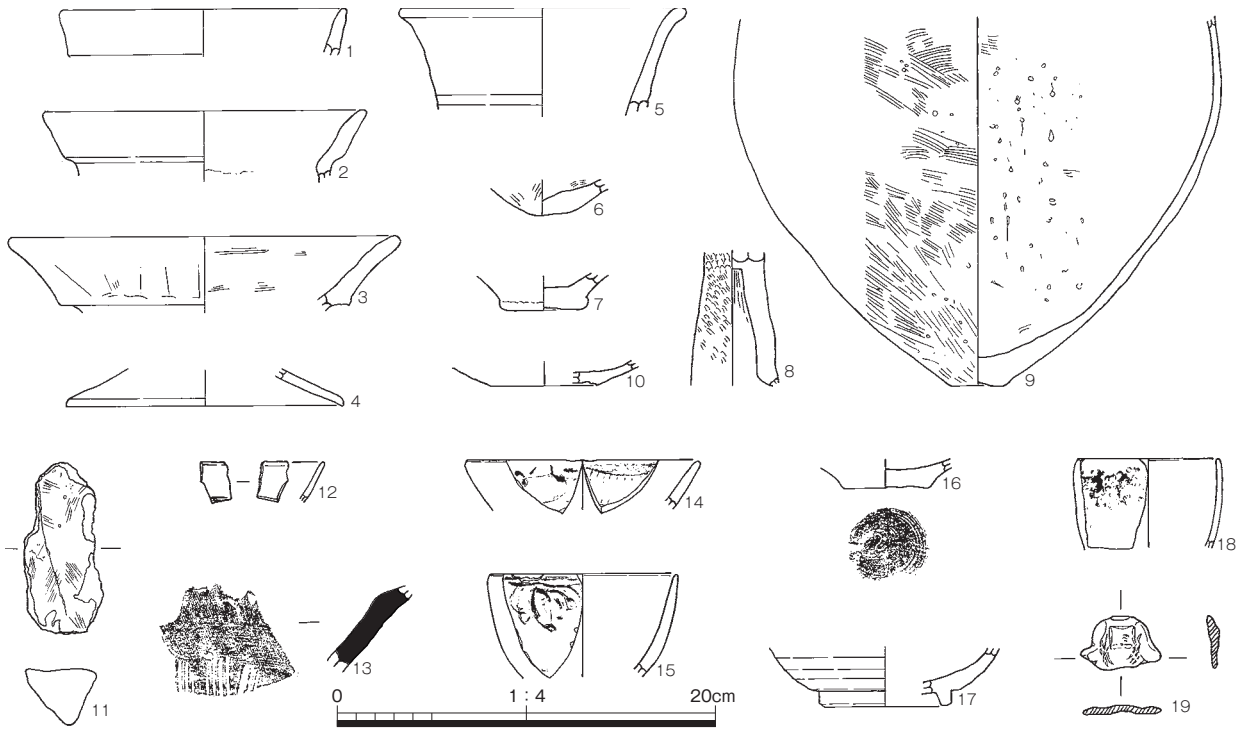
第6図 作道地区試掘調査トレンチ・検出遺構図 [1]



第7図 作道区試掘調査トレンチ・検出遺構図 [2]

番号	延長(m)	面積(m ²)	検出遺構	出土遺物	備考
1	52.9	48.00	不明溝1	弥生土器(壺) 近世磁器(産地不明) 近世陶器(越中瀬戸皿)	高木・荒畑遺跡
2	53.0	49.28			高木・荒畑遺跡
3	49.5	55.24			高木・荒畑遺跡
4	19.3	22.44	弥生溝1	弥生土器(壺) 不明木製品	高木・荒畑遺跡隣接地
5	50.8	55.02	攪乱1	不明木製品	高木・荒畑遺跡隣接地
6	45.3	55.99		弥生土器	高木・荒畑遺跡隣接地
7	34.3	36.56	不明溝1	弥生土器	鏡宮遺跡隣接地
8	43.5	47.60			鏡宮遺跡隣接地
9	29.4	32.45			鏡宮遺跡隣接地
10	65.1	66.83	地形落込み1	弥生土器(壺・高坏) 中世珠洲(壺) 不明石製品(砥石)	高木・荒畑遺跡
11	21.8	23.98			高木・荒畑遺跡
12	39.7	41.81			鏡宮遺跡
13	45.6	51.93			鏡宮遺跡
14	36.5	39.29			高木・荒畑遺跡
15	34.0	35.03			作道遺跡隣接地
16	36.7	41.20		弥生土器 近世磁器(伊万里碗)	作道遺跡隣接地
17	39.2	44.51			作道遺跡隣接地
18	47.5	53.07		弥生土器 近世磁器(肥前系碗) 近世陶器(産地不明)	作道遺跡
19	39.1	41.52		弥生土器(高坏・壺)	作道遺跡
20	45.8	50.85		弥生土器 近世磁器(産地不明)	作道遺跡
21	42.7	41.61	不明溝2	弥生土器	作道遺跡
22	40.1	43.27		弥生土器	作道遺跡隣接地
23	43.0	49.83		弥生土器 近世磁器(肥前系碗)	作道遺跡
24	52.6	54.18	不明溝2、地形落込み3		作道遺跡
25	25.3	27.93	地形落込み1	近世磁器(伊万里)	作道遺跡
26	48.9	49.21	地形落込み1		作道遺跡
27	34.0	35.43	不明溝1	中世珠洲(すり鉢)	作道遺跡
28	50.7	54.69	不明溝4	近世磁器(産地不明) 近世陶器(越中瀬戸)	作道遺跡
29	50.8	54.06		弥生土器 近世磁器(伊万里) 近世陶器(越中瀬戸)	作道遺跡
30	51.1	52.51		弥生土器	作道遺跡
31	54.8	57.49	不明溝3、攪乱2	土製品(泥面子)	作道遺跡
32	51.5	54.08	不明土坑1、攪乱1	中世土師器(皿) 近世陶器(産地不明)	作道遺跡
33	16.6	14.78			作道遺跡
34	18.6	18.15			作道遺跡
35	44.7	45.75	地形落込み1、攪乱1		作道遺跡
36	42.9	45.74	攪乱3		作道遺跡
37	43.0	44.06	不明土坑1、攪乱3		作道遺跡
38	45.9	48.82		近世陶器(産地不明)	作道遺跡隣接地
表採				銅銭(□□通寶)	

第3表 作道地区試掘調査トレンチ一覧



第8図 遺物実測図 (1/4) 高木・荒畑遺跡(1~7, 9~12) 作道遺跡(8, 13~19)

図版	No.	出土地区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第8図	1	10T	弥生土器	甕	14.8			高木・荒畑遺跡	破片
	2	10T	弥生土器	壺	17.0			高木・荒畑遺跡	破片
	3	10T	弥生土器	壺	20.4			高木・荒畑遺跡	口1/4
	4	10T	弥生土器	高坏			14.6	高木・荒畑遺跡	脚部1/8
	5	4 T	弥生土器	壺	14.8			高木・荒畑遺跡	口1/2
	6	10T	弥生土器	壺			2.1	高木・荒畑遺跡	底完存
	7	10T	弥生土器	壺			4.7	高木・荒畑遺跡	底7/8
	8	19T	弥生土器	高坏				作道遺跡	柱状部1/6
	9	4 T	弥生土器	甕			2.7	高木・荒畑遺跡	体1/3 底完存
	10	1 T	近世陶器	皿			5.6	高木・荒畑遺跡 越中瀬戸	底1/6
	11	10T	石製品	砥石				高木・荒畑遺跡	
	12	10T	近世磁器	碗				高木・荒畑遺跡 産地不明	破片
	13	27T	中世珠洲	すり鉢				作道遺跡	破片
	14	25T	近世磁器	碗	13.2			作道遺跡 伊万里	口1/8
	15	18T	近世磁器	碗	9.9			作道遺跡 産地不明	口1/8
	16	28T	近世陶器	皿			4.5	作道遺跡 越中瀬戸	底ほぼ完形
	17	38T	近世陶器	碗			6.4	作道遺跡 瀬戸	底1/6
	18	20T	近世磁器	碗	7.5			作道遺跡 伊万里	口1/8
	19	31T	土製品	面子				作道遺跡 僧侶	

口：口縁部 体：体部 底：底部

第4表 出土遺物観察表 [高木・荒畑遺跡、作道遺跡]

第3節 各種開発に伴う工事立会調査

令和4年度に射水市教育委員会が実施した埋蔵文化財の工事立会調査件数は15件であった。調査の原因は個人専用住宅建築(9件)、車庫建築(3件)、宅地造成に伴う擁壁工事(1件)といった住宅関連と携帯電話基地局建設(1件)の民間開発が14件、公共事業では工業用水配管新設事業の1件であった。

工事立会調査によって保護措置が必要となる埋蔵文化財が確認された箇所については、遺構掘削及び遺物の取上げを行い調査を完了している。

工事立会

No.	遺跡名	所在地	種別	調査原因	調査期間	調査日数	対象面積	確認面積	検出遺構	出土遺物	調査後の措置
1	本江東 (211050)	かもめ台45	散布地 集落	車庫建築	R4.7.15	1	272.83	28.72	なし	なし	工事実施
2	禪照寺跡 (211312)	浄土寺字林 寺1675番1	社寺	携帯電話 基地局建設	R4.7.28	1	3.25	3.25	なし	なし	工事実施
3	鷺塚村中 (211070)	鷺塚748番2	集落	個人専用 住宅建築	R4.7.29	1	356.96	65.53	なし	なし	工事実施
4	新屋敷 (211325)	青井谷字新 屋敷地内	散布地	西部工業 用水道工事	R4.5.13 R4.8.1	2	399.00	56.00	なし	なし	工事実施
5	日の宮城跡 (211149)	中太閤山 6-25	集落 散布地 城館	個人専用 住宅建築	R4.8.19	1	301.41	59.20	なし	なし	工事実施
6	高島A (211027)	鏡宮弥生 二丁目113 外1筆	集落	個人専用 住宅建築	R4.8.25 R4.9.2	1	204.41	89.22	なし	なし	工事実施
7	加茂社 (211088)	三ヶ2678番1 外1筆	集落 散布地	宅地造成 擁壁工事	R4.9.16	1	5.06	0.72	弥生溝	弥生土器	工事実施 (一部記録保存)
8	寺塚原西 (211047)	寺塚原897番	散布地	車庫建築	R4.9.27	1	375.77	22.13	なし	なし	工事実施
9	本江東 (211050)	かもめ台99	散布地 集落	個人専用 住宅建築	R4.10.24	1	311.73	96.88	なし	なし	工事実施
10	赤井 (211445)	赤井字拾田 473番地	集落 城館	個人専用 住宅建築	R4.11.15	1	1,420.70	105.99	なし	なし	工事実施
11	今井 (211044)	沖175番	集落 散布地	個人専用 住宅建築	R4.12.8	1	980.79	103.09	なし	なし	工事実施
12	小杉伊勢領 (211087)	三ヶ2304番5	集落 散布地	個人専用 住宅建築	R4.12.8	1	267.20	112.42	なし	なし	工事実施
13	赤田I (211361)	一条208番	集落 散布地	個人専用 住宅建築	R5.2.2 R5.2.6	2	201.25	51.24	なし	なし	工事実施
14	高木・荒畑 (211029)	鏡宮446-1	集落	個人専用 住宅建築	R5.3.28	1	677.43	45.85	なし	なし	工事実施
15	黒河尺目 (211104)	中老田新 691番4	集落 散布地	カーポート 建設	R5.3.29	1	228.12	28.73	なし	なし	工事実施
14遺跡15件						17	6,005.91	868.97			

分布調査

No.	遺跡名	所在地	種別	調査原因	調査期間	調査日数	対象面積	発掘面積	検出遺構	出土遺物	調査後の措置
1	荒町遺跡 (211418)	荒町86番地 外313筆	散布地	県営ほ場整備 荒町・宮新田 地区	R4.3.22～ R4.3.24	3	210.000	72.50	溝	弥生土器 古代須恵器 中世珠洲	令和5年度実施の試 掘調査箇所を確定
	なし								古代須恵器		
2	生源寺南 (211400)	串田1484番 地外38筆			R4.10.31～ R4.11.7	3	218.000	103.60	なし	弥生土器	

※ 遺跡名下の()内の数字は射水市遺跡番号を示す。

第5表 令和4年度埋蔵文化財工事立会調査・分布調査一覧

第4節 荒町・宮新田地区県営ほ場整備事業に伴う分布調査 (No.1・2)

1. 調査対象地の現況

調査は、県営ほ場整備事業計画整備区域である和田川兩岸約48.8haを対象として2か年度にわたり実施した。調査対象地の現況は水田であり、標高は13.1m～22.7mである。



第9図 荒町・宮新田地区分布調査対象地及び周辺の遺跡(1/10,000)

- ①荒町遺跡 ②円池遺跡 ③生源寺南遺跡 ④串田新遺跡 ⑤南郷中学南古墳 ⑥生源寺新遺跡 ⑦生源寺新B遺跡 ⑧大塚古墳
⑨市井泓田遺跡 ⑩布目沢苗島遺跡

2. 調査の方法

荒町・宮新田地区で計画されている県営ほ場整備事業は、計画整備面積が約 48.8ha と広大である。事業対象地北部の和田川両岸域には、周知の埋蔵文化財包蔵地として荒町遺跡・円池遺跡があり、東部の丘陵裾部には、生源寺南遺跡が位置している。

この地区では、これまで埋蔵文化財調査が殆ど実施されていないため、ほ場整備の基幹である整備計画水田部における埋蔵文化財包蔵地の状況と、隣接地区への遺跡の広がりを確認するために実施した。

現地調査では、地表面の踏査による土器の遺物採集、並行して小規模なトレンチ掘削(坪掘り)を併用し、地下の旧地形の起伏をあわせて確認することで、総合的にその範囲について検討を行った。

トレンチ掘削は、小型のバックホウを使用して幅約 0.8 m、長さ 1.0～1.8 m のトレンチ(以下 T と略す)を任意に設定した。遺構が存在すると考えられる層(地山・遺構想定面)まで掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認するとともに、実測及び写真撮影を行い土層堆積状況の記録を作成した。掘削したトレンチは計 127 箇所、発掘面積は 176.1 m² である。

3. 調査の結果

(1) 基本層序

基本層序は、上層から順に概ね、Ⅰ層：黄灰(2.5Y4/1)色粘質土(水田耕作土)Ⅱ層：黒褐(2.5Y3/2)色粘質土(自然堆積土)、Ⅲ層：灰(5Y5/1)色又はオリーブ褐(2.5Y4/6)色の粘質シルト(地山)が堆積する。遺構確認はⅢ層上面で行った。



(2) 遺構及び遺物(第 10 図、図版 14・15)

荒町遺跡周辺 荒町遺跡南部の 30 T で南北方向の溝を検出したが、出土遺物がなく時期は不明である。各トレンチ内で検出した地山層の標高は、六ヶ用水を挟んで南北で 2.4 m の高低差があった。

また、中央部の 24 T・25 T では田面より最深 1.4 m の掘削でも地山層が検出されなかったことから、この周辺に谷状地形の広がりが考えられる。表面踏査では、谷状地形の北側から六ヶ用水を渡って事業対象地北端部にかけて、弥生土器 2 点、古代須恵器 16 点、中世珠洲 2 点を計 15 箇所採取した。

円池遺跡周辺 58 T～64 T の計 7 箇所トレンチ掘削を実施したが、遺構・遺物は検出できなかった。各トレンチ内で検出した地山層の標高は、和田川までの東西方向で 2.5 m の高低差があった。表面踏査では、古代須恵器 1 点を 58 T のほ場より採取した。

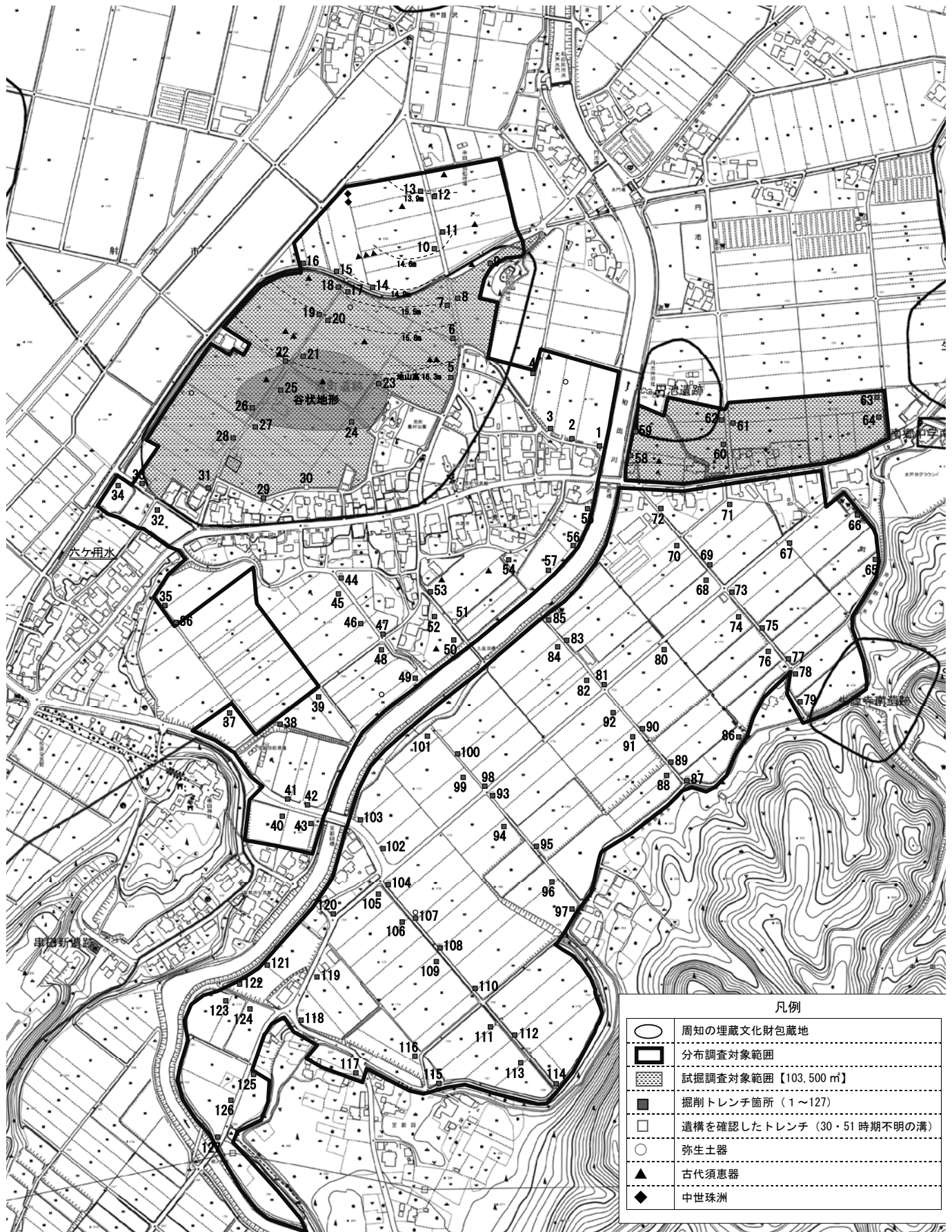
主要地方道富山戸出小矢部線南側一和田川左岸域 周知の埋蔵文化財包蔵地が確認されていないこの区域内に、計 23 箇所トレンチ掘削を実施したが、51 T の溝(時期不明)のみの検出となった。表面踏査では、弥生土器 1 点、古代須恵器 2 点を計 3 箇所採取した。地山層に砂礫が混在するトレンチを数か所検出したことから、この区域内は和田川の氾濫原と考えられるため、遺跡の広がりはないものと判断した。

主要地方道富山戸出小矢部線南側一和田川右岸域 周知の埋蔵文化財包蔵地が確認されていない和田川右岸域に、計 63 箇所トレンチ掘削を実施したが、遺構は確認されなかった。

遺物は 107 T の 2 層より弥生土器片が出土したが、表土への流れ込みと考えられる。トレンチ内で検出した地山層の標高は、芹谷野用水から和田川へ向けて東西方向で最大 7.9 m の高低差があり、過去の区画整理で、大規模な切土・盛土が行われている。

(3) 今後の対応

埋蔵文化財の広がりが推定される約 103,500 m² の範囲は、令和 5 年度に試掘調査を実施し、その結果をもとにほ場整備事業計画との調整を図ることとなった。

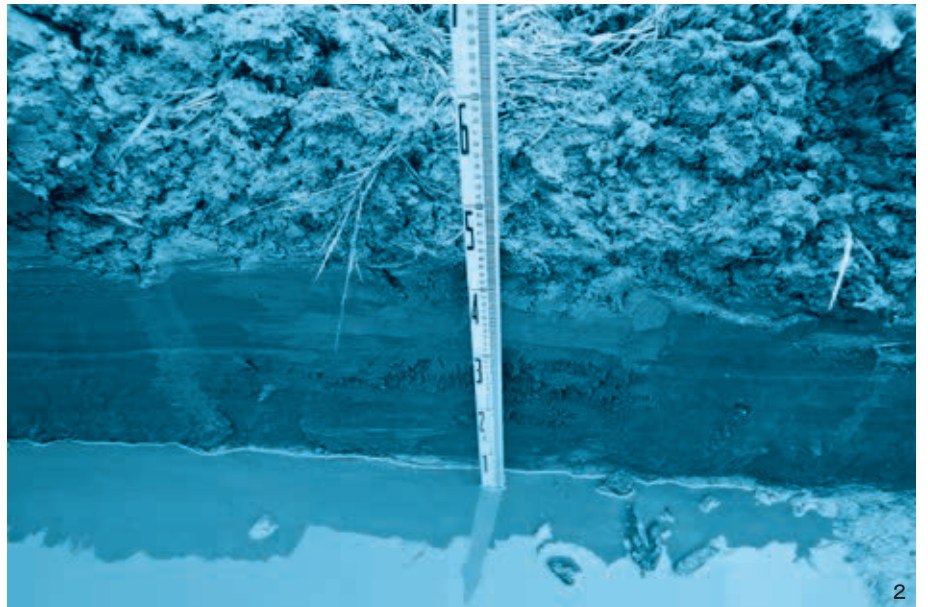


第10図 荒町・宮新田地区分布調査平面図〔トレンチ及び採取箇所〕

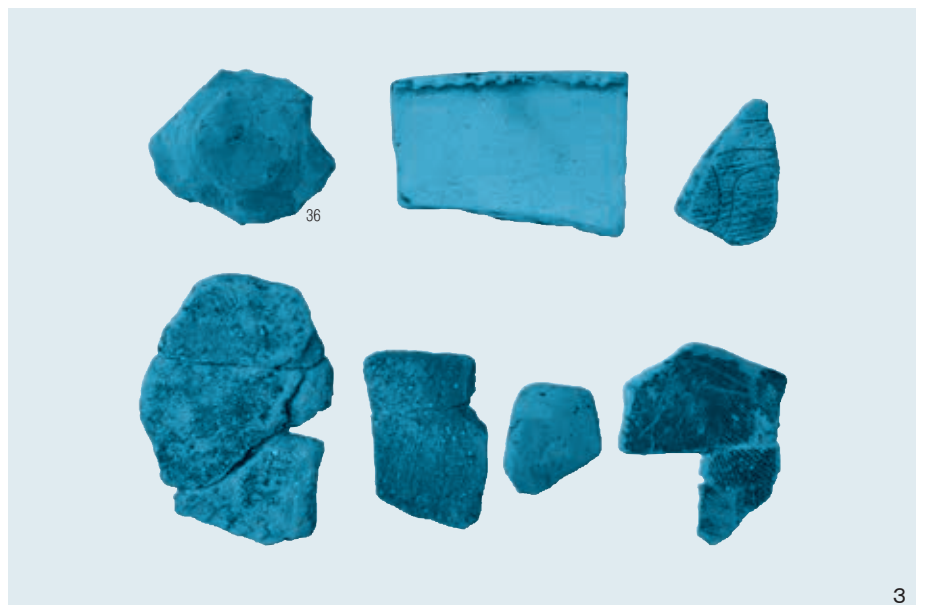
1. 調査対象地全景
(東から)



2. 1 T 土層断面
(南から)



3. 出土遺物
弥生土器



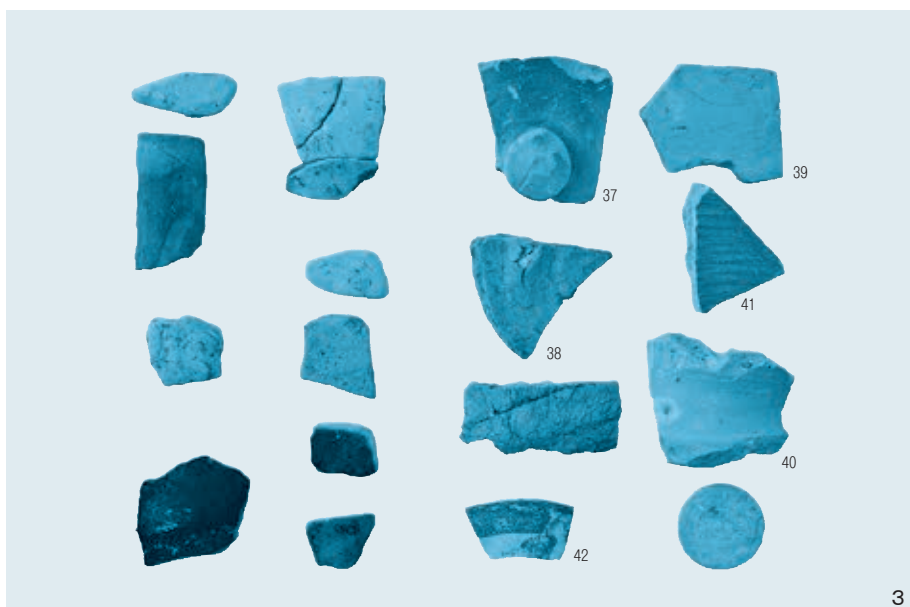
図版2 中山北B遺跡 (No.19) 試掘調査



1. 1 T土層断面
(東から)



2. 1 T遺構検出
(南西から)



3. 出土遺物
弥生土器
古代須恵器
近世陶器

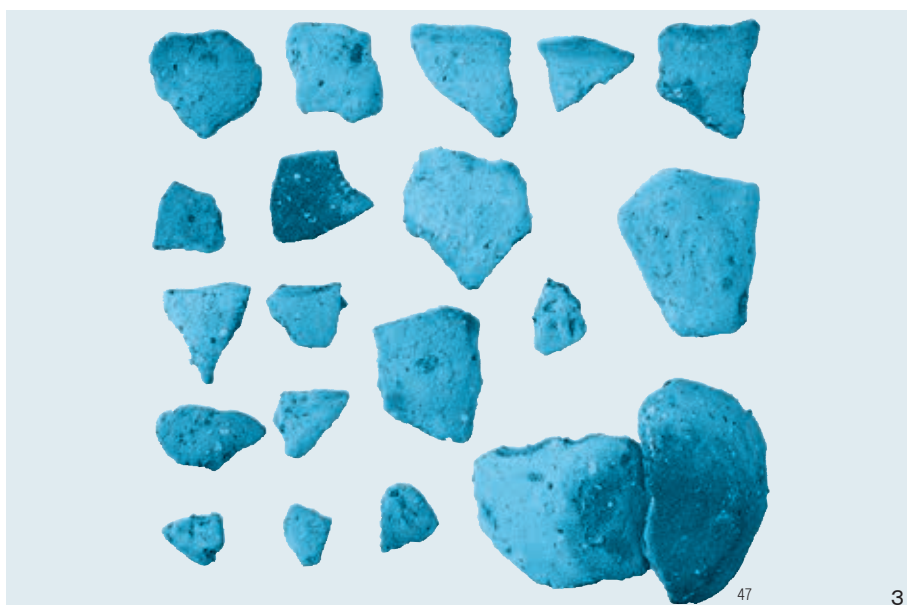
1. 2T全景
(南から)



2. 2T土層断面
(西から)



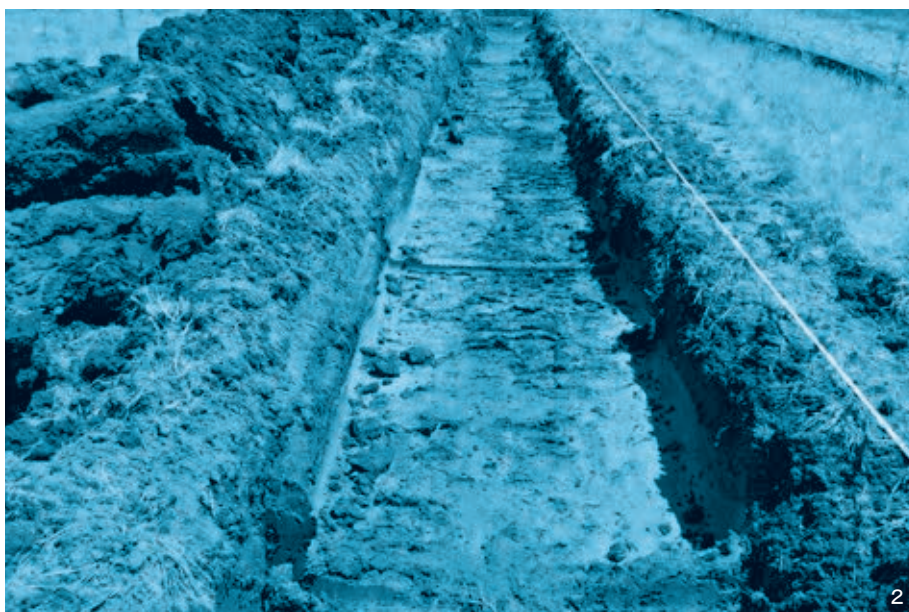
3. 出土遺物
弥生土器



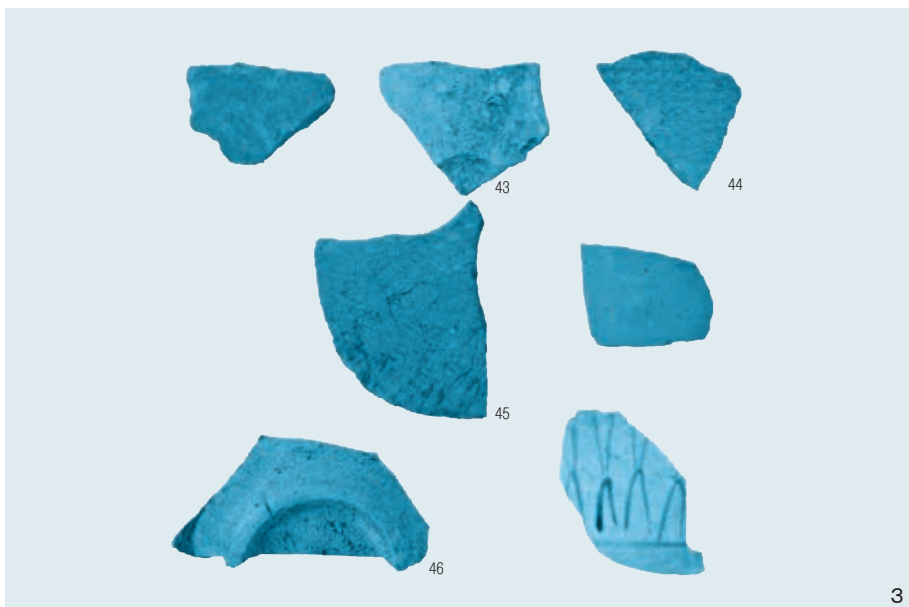
図版4 大白北遺跡 (No.5) 試掘調査



1. 10T 全景
(北から)



2. 10T 遺構検出
(南から)



3. 出土遺物
古代須恵器
近世陶器
近世磁器

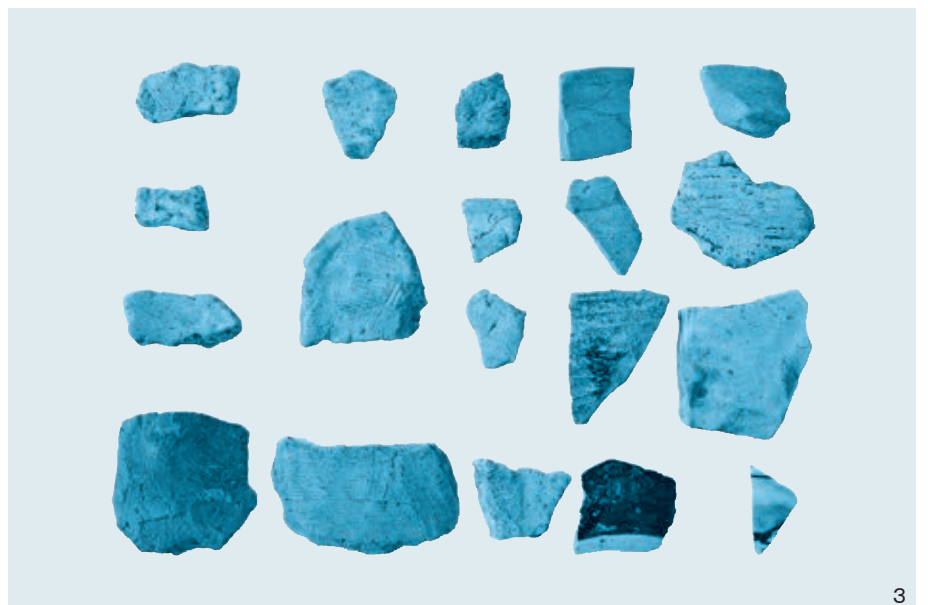
1. 2 T 調査状況
(西から)



2. 1 T 土層断面
(南から)



3. 表採遺物
弥生土器
古代須恵器
近世陶器
近世磁器



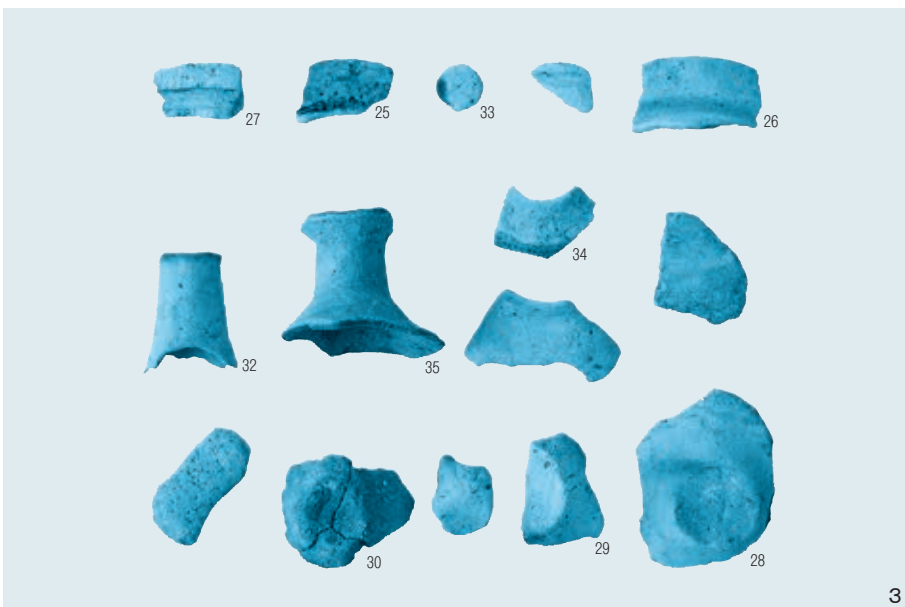
図版6 加茂社遺跡 (No.7) 試掘調査



1. 調査対象地全景
(南から)



2. 1 T 遺構検出
(東から)



3. 出土遺物
弥生土器

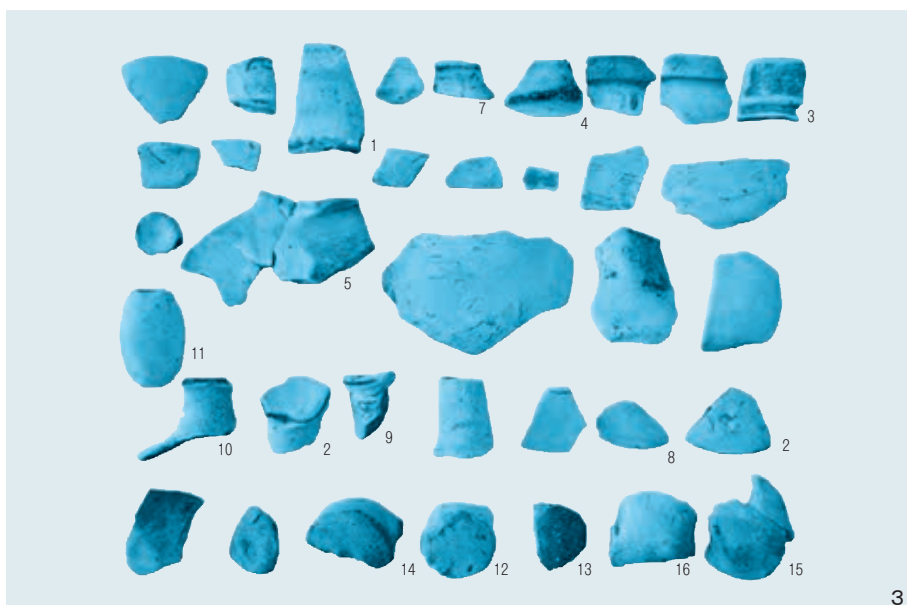
1. 1 T 全景
(東から)



2. 1 T 遺構検出
(東から)



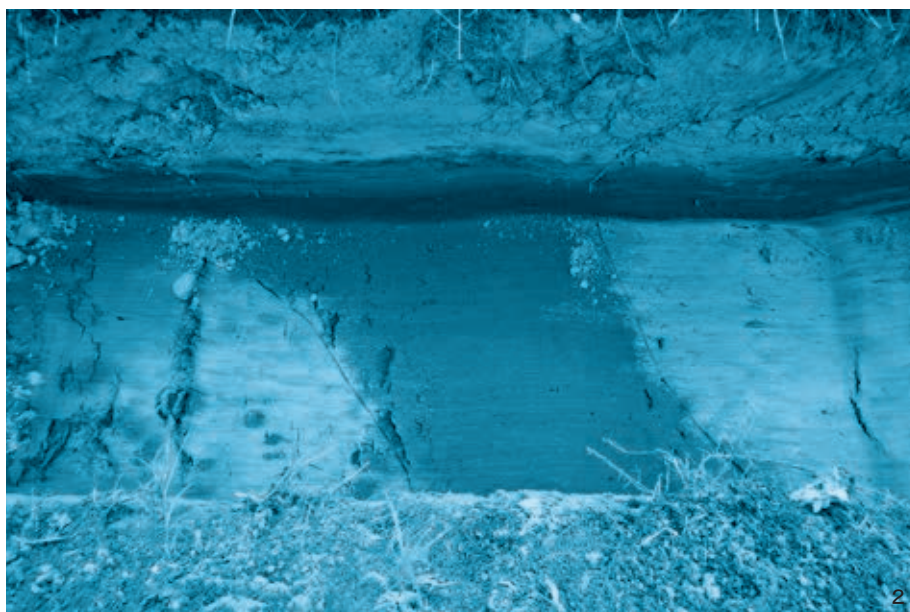
3. 出土遺物
弥生土器



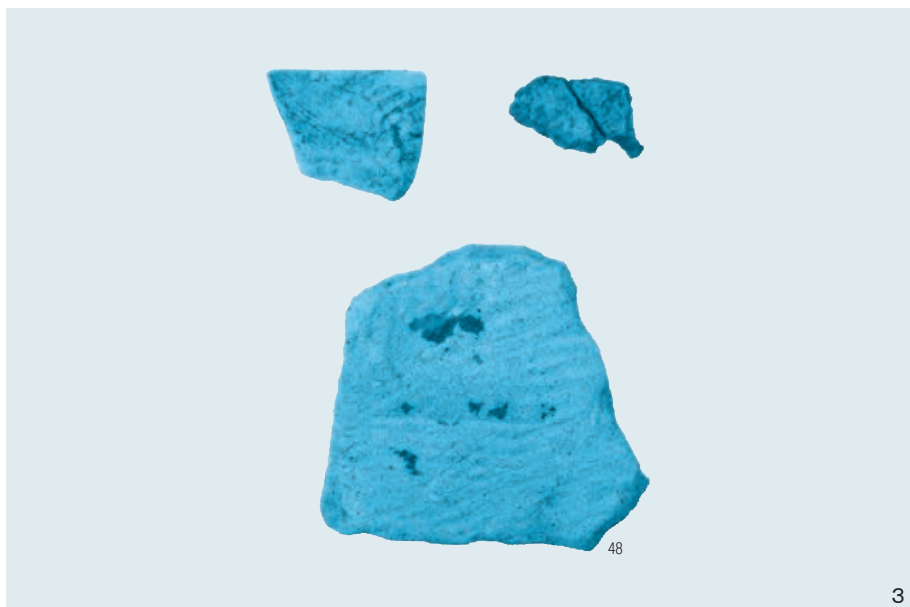
図版8 高島A遺跡 (No.10) 試掘調査



1. 3T全景
(南から)



2. 3T遺構検出
(南から)

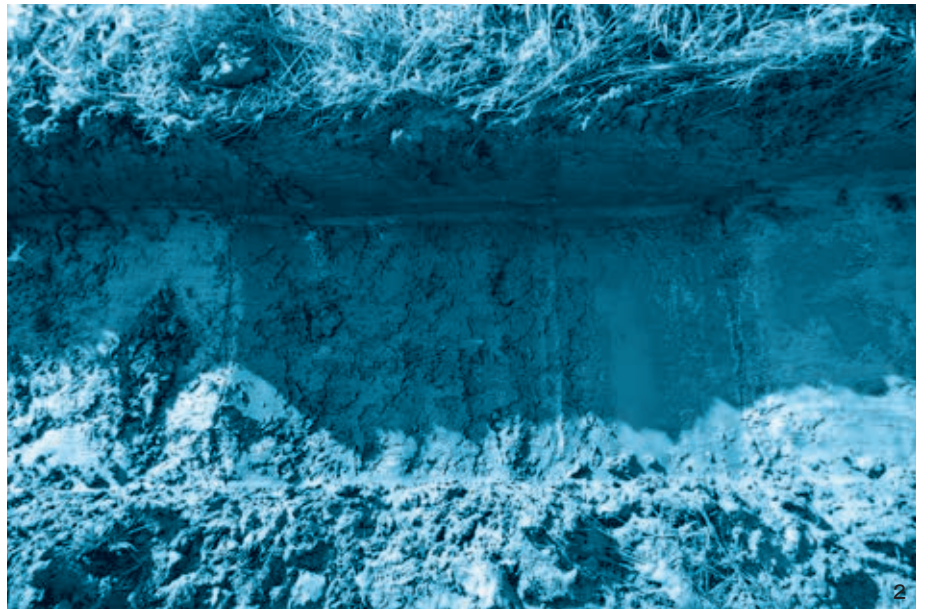


3. 出土遺物
弥生土器
古代須恵器

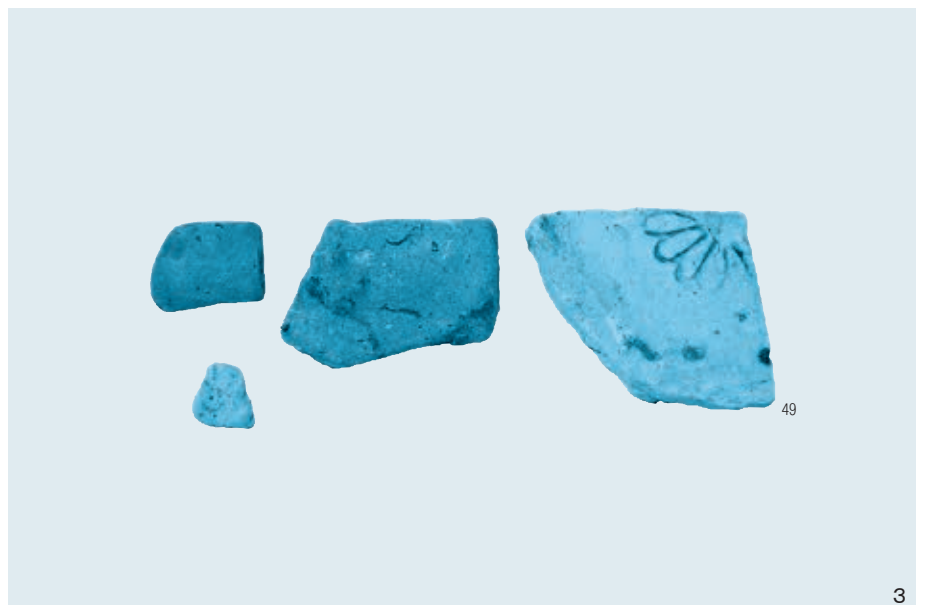
1. 調査対象地全景
(西から)



2. 1T遺構検出
(西から)



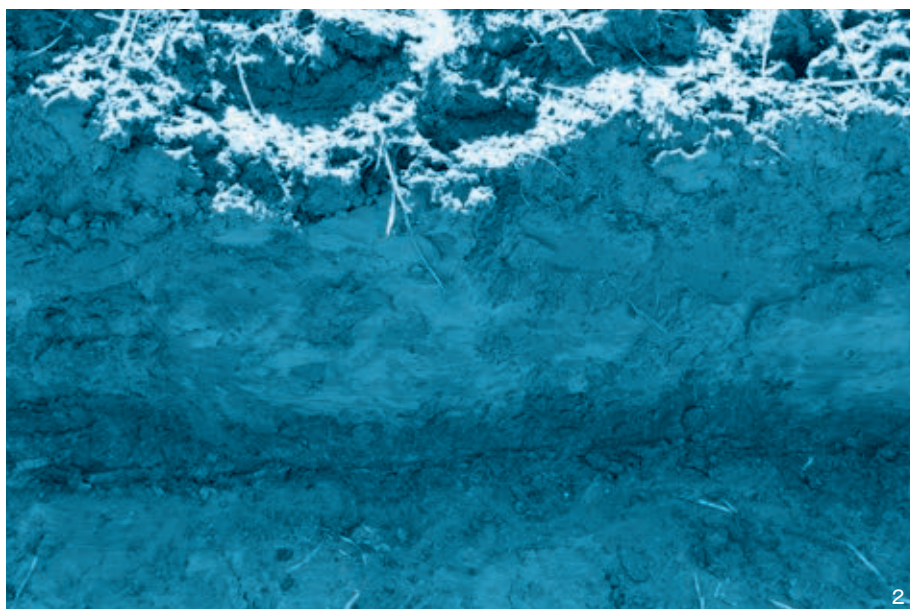
3. 出土遺物
弥生土器
近世陶器



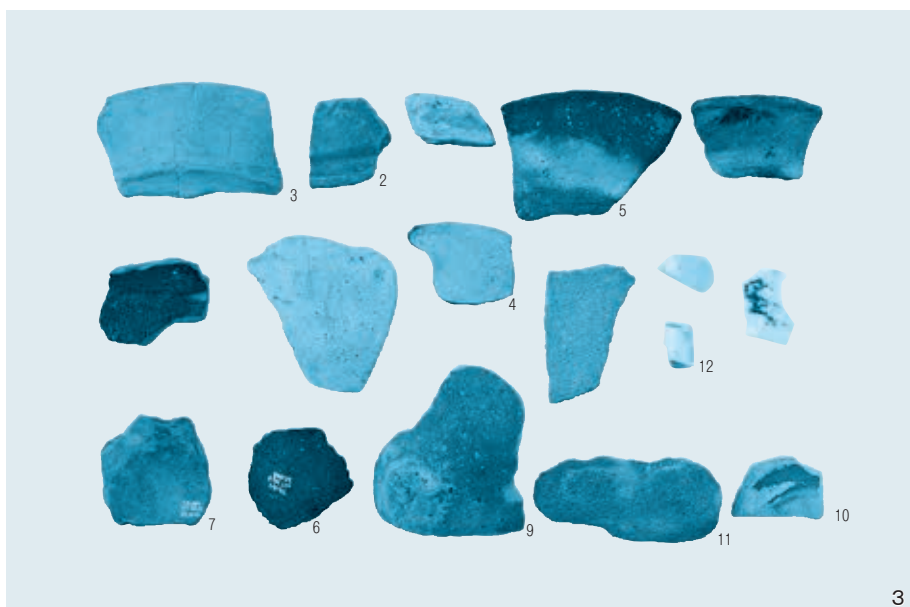
図版10 高木・荒畑遺跡 (No.15) 試掘調査



1. 4 T調査状況
(東から)



2. 4 T土層断面
(南から)

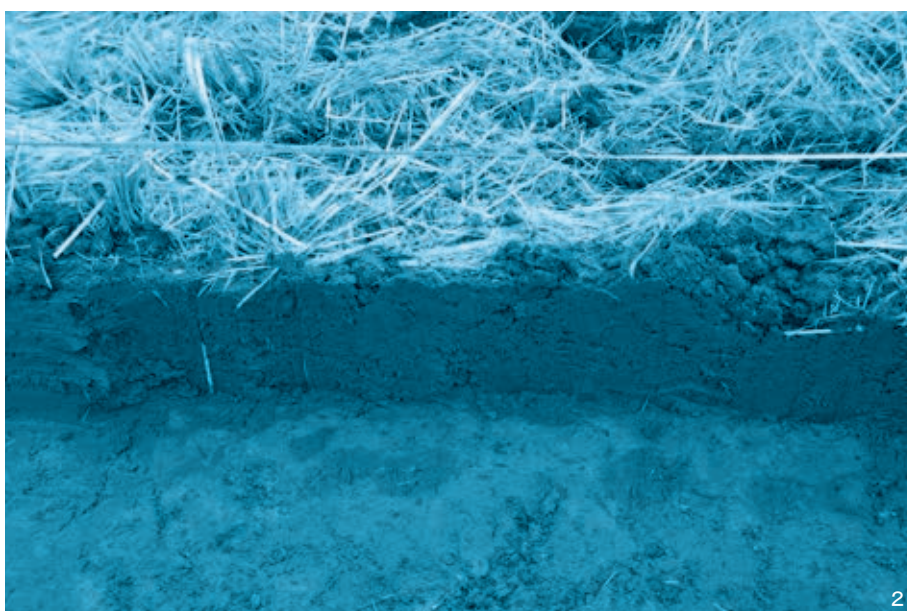


3. 出土遺物
弥生土器
中世珠洲
近世陶器
近世磁器

1. 12T調査状況
(東から)



2. 12T土層断面
(南から)



3. 出土遺物
弥生土器



1

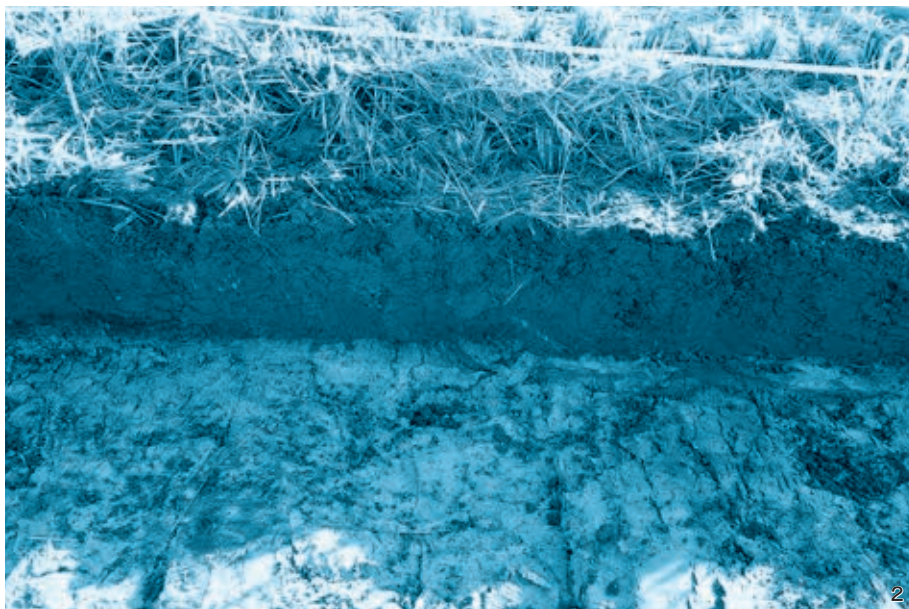
2

3

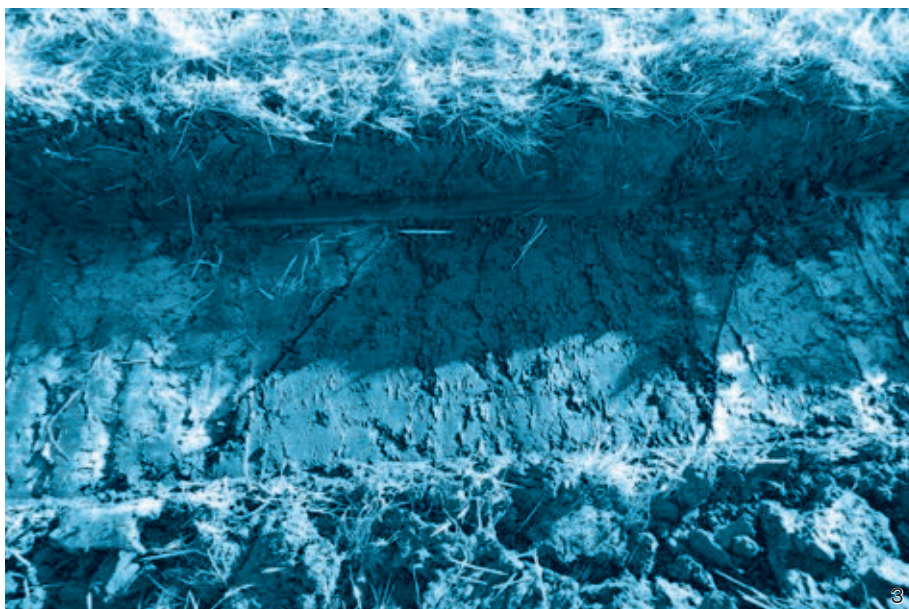
図版12 作道遺跡 (No.17) 試掘調査



1. 27T全景
(東から)



2. 27T土層断面
(南から)

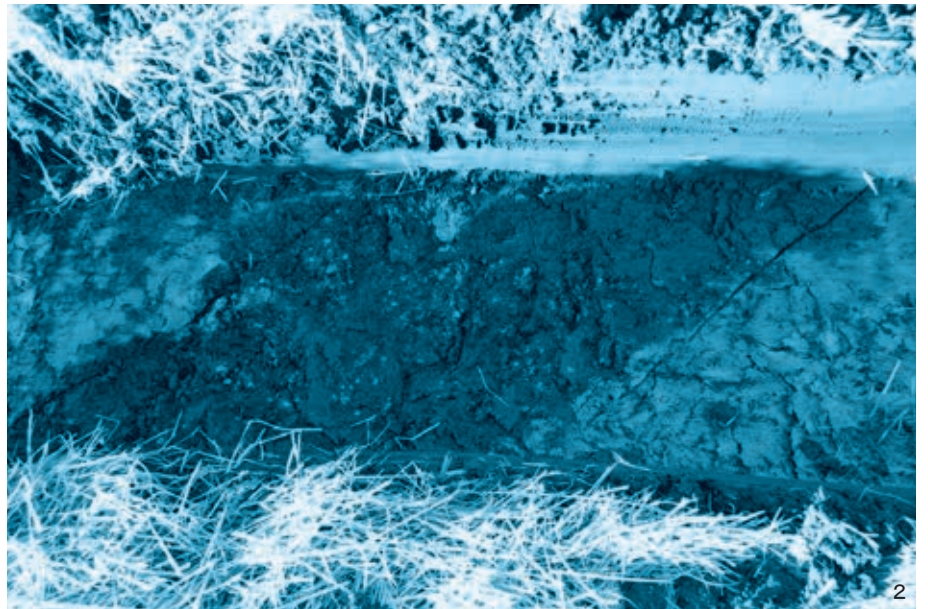


3. 27T遺構検出
(南から)

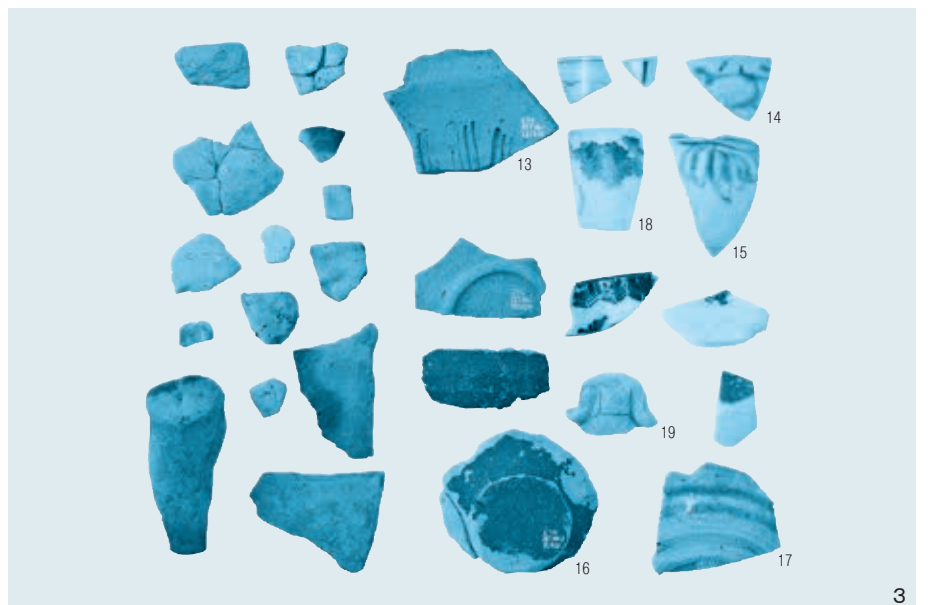
1. 31T全景
(東から)



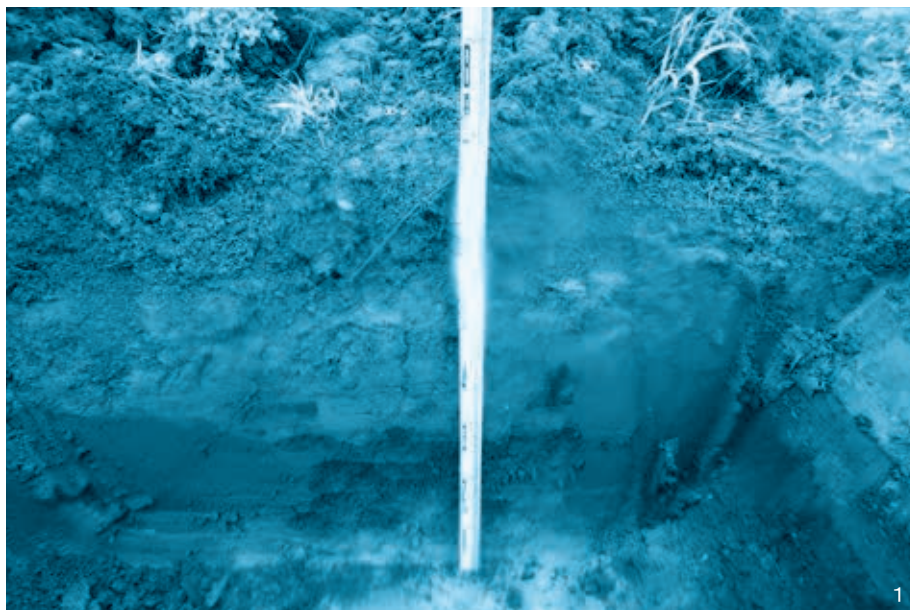
2. 31T遺構検出
(南から)



3. 出土遺物
弥生土器
中世珠洲
近世陶器
近世磁器
土製品



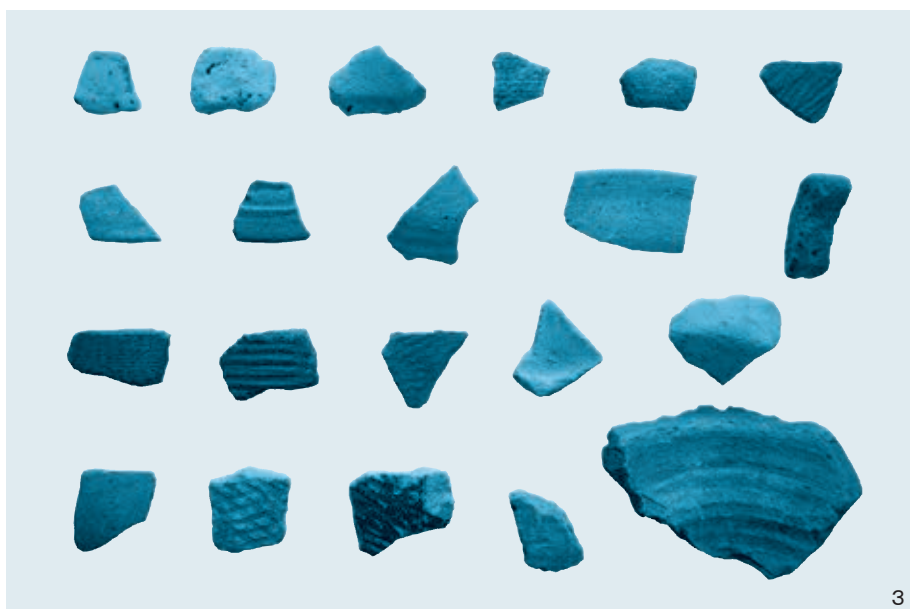
図版14 荒町・宮新田地区分布調査



1. 17T土層断面
(東から)

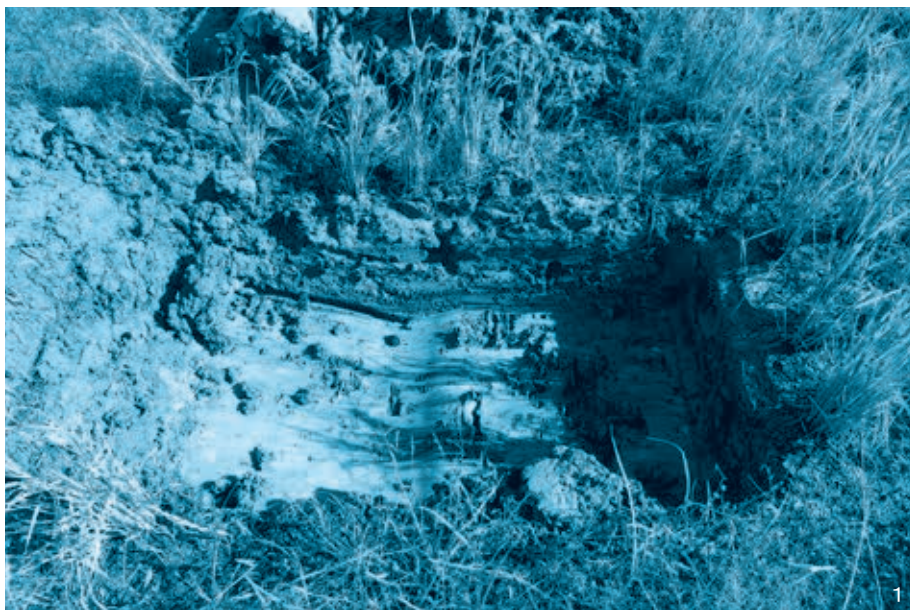


2. 30T遺構検出
(南から)

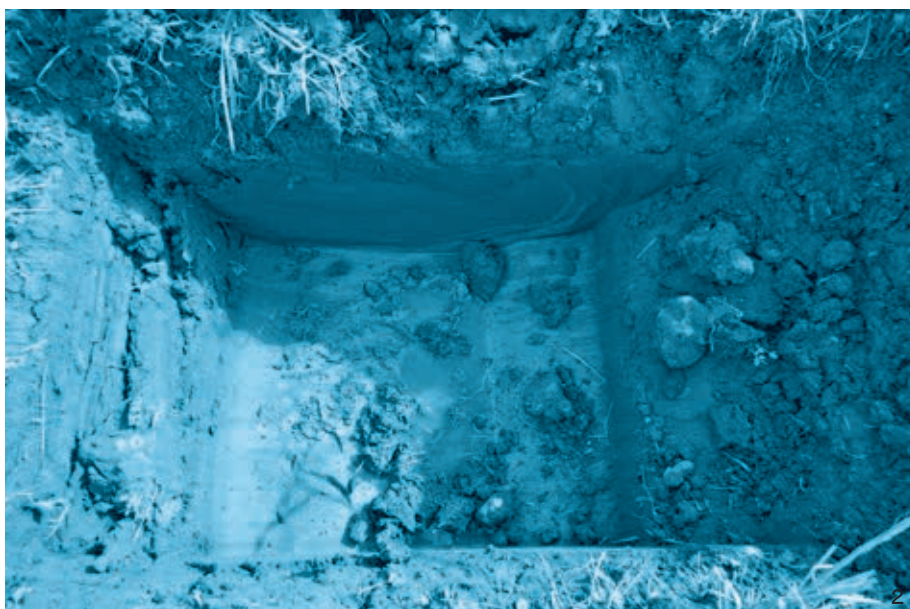


3. 表採遺物
弥生土器
古代須恵器
中世珠洲

1. 79T全景
(北から)



2. 107T全景
(南から)



3. 107T出土遺物
弥生土器



報告書抄録

ふりがな	いみずしないいせきはくつちょうさほうこくじゅうろく							
書名	射水市内遺跡発掘調査報告16							
副書名	令和4年度射水市内遺跡発掘調査							
編著者名	田中 明・原田義範							
編集機関	射水市教育委員会							
所在地	〒939-0294 富山県射水市新開発410番地1 TEL 0766-51-6637							
発行年月日	西暦2024年3月26日							
ふりがな 主な所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なかやまたびーいせき 中山北B遺跡	いみずしひばり 射水市戸破	211	094	36°42'31"	137°05'58"	20220415 20221114	57.3 102.29	集合住宅建設
ひばりかんだいせき 戸破神田遺跡	いみずしひばり 射水市戸破	211	082	36°43'13"	137°06'26"	20220516	8.64	事務所建設
ぜんこうじちやうとくじ 禪興寺・長徳寺 はいじあと 廃寺跡	いみずしほんまち 射水市本町	211	011	36°47'01"	137°04'24"	20220519 20220520	32.16 15.44	宅地造成 個人住宅建築
だいはくきたいせき 大白北遺跡	いみずしほしげじやう 射水市橋下条	211	356	36°42'25"	137°04'51"	20220524 20220525	547.8	駐車場造成
ほうのきしーいせき 朴木C遺跡	いみずしほうのき 射水市朴木	211	044	36°45'36"	137°04'40"	20220606 20220704	15.2 18.27	個人住宅建築 宅地造成
かもしやいせき 加茂社遺跡	いみずしさんが 射水市三ヶ	211	088	36°42'52"	137°05'40"	20220614 20220722 20220921	59.78 6.72 53.92	集合住宅建設 駐車場造成 集合住宅建設
こじまいせき 小島遺跡	いみずしこじま 射水市小島	211	454	36°41'18"	137°04'01"	20220708	25.48	資材置場 駐車場造成
たかしまえいせき 高島A遺跡	いみずしかがのみや 射水市鏡宮	211	027	36°45'15"	137°05'13"	20220720 20220721	281.58	市有地 埋設物調査
なかそねにしいせき 中曽根西遺跡	いみずしまつのみ 射水市松木	211	016	36°45'55"	137°04'09"	20220826	19.4	個人住宅建築
やつつかえいせき 八塚A遺跡	いみずしやつつか 射水市八塚	211	447	36°43'36"	137°03'44"	20220913	20.93	個人住宅建築
たかぎあはたいせき 高木・荒畑遺跡	いみずしふたくち 射水市作道	211	029	36°44'27"	137°05'02"	20221012 20221017	416.07	県営ほ場整備
かがのみやいせき 鏡宮遺跡	いみずしつくりみち 射水市作道	211	028	36°44'58"	137°05'10"	20221013 20221017	210.35	県営ほ場整備
つくりみちいせき 作道遺跡	いみずしつくりみち 射水市作道	211	030	36°45'10"	137°05'41"	20221018 20221025	1,057.77	県営ほ場整備
わかばちやういせき 若葉町遺跡	いみずしひばり 射水市戸破	211	089	36°42'56"	137°06'06"	20221109	22.4	集合住宅建設
ふたくちにしいせき 二口西遺跡	いみずしふたくち 射水市二口	211	402	36°43'43"	137°02'58"	20221116	37.44	宅地造成
いまいにしまいせき 今井二島遺跡	いみずしいまい 射水市今井	211	043	36°46'38"	137°04'32"	20230307	94.2	資材置場 駐車場造成
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
なかやまたびーいせき 中山北B遺跡	散布地	縄文～近世		不明溝		弥生土器・古代須恵器 近世陶磁器		
ひばりかんだいせき 戸破神田遺跡	散布地	古代・中世		なし		なし		
ぜんこうじちやうとくじ 禪興寺・長徳寺 はいじあと 廃寺跡	社寺	中世		なし		なし		
だいはくきたいせき 大白北遺跡	散布地	弥生～近世		不明溝・不明土坑		古代須恵器・近世陶磁器		
ほうのきしーいせき 朴木C遺跡	散布地	弥生～中世		なし		なし		
かもしやいせき 加茂社遺跡	集落・散布地	縄文～近世		弥生溝・不明溝・不明土坑		弥生土器・石器		
こじまいせき 小島遺跡	散布地	中世・近世		不明溝		なし		
たかしまえいせき 高島A遺跡	集落	弥生・古墳 中世		不明溝・不明土坑		弥生土器・中世珠洲		
なかそねにしいせき 中曽根西遺跡	散布地	弥生・古代 中世		なし		なし		
やつつかえいせき 八塚A遺跡	散布地・集落	中世・近世		弥生溝・古代溝・不明土坑 不明柱穴状土坑		弥生土器・古代須恵器		
たかぎあはたいせき 高木・荒畑遺跡	集落	縄文・弥生 古代・中世		弥生溝		弥生土器・中世珠洲 近世陶磁器		
かがのみやいせき 鏡宮遺跡	散布地	弥生		不明溝		弥生土器		
つくりみちいせき 作道遺跡	集落	弥生・古代 中世		不明溝・不明土坑		弥生土器・中世珠洲 近世陶磁器・土製品		
わかばちやういせき 若葉町遺跡	散布地	古代		なし		弥生土器		
ふたくちにしいせき 二口西遺跡	散布地	不明		川跡、不明溝		弥生土器・近世陶磁器		
いまいにしまいせき 今井二島遺跡	散布地	弥生		なし		なし		
要 約								

射水市内遺跡発掘調査報告16

－令和4年度射水市内遺跡発掘調査－

2024（令和6）年3月26日発行

編集・発行 射水市教育委員会
〒939-0294
富山県射水市新開発410番地1
TEL0766-51-6637

印刷 株式会社タニグチ印刷
